

四條畷市 地域福祉計画策定に係る
調査結果報告書

平成30年3月
四條畷市

目次

1. 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の設計.....	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方.....	1
2. 市民アンケート調査結果	3
1. あなたのことについて	3
2. お住まいの地域について.....	6
3. こころの健康について	19
4. 生活課題や地域の福祉について.....	25
5. 地震や風水害などが起こった時の考え方について	35
6. ボランティア活動について.....	39
7. 地域福祉にかかわる機関や団体、しくみについて	44
3. 調査結果の概要	57
4. 参考（経年比較調査結果）	633

1. 調査の概要

1. 調査の概要

1. 調査の目的

平成 30 年度に第 4 期四條畷市地域福祉計画（以下「計画」という。）の策定を行うにあたり、市民の地域に対する思い、日々の生活の中で抱えているさまざまな課題、地域活動やボランティア活動の参加状況・利用意向などの現状を調査し、今後の地域福祉のあり方についての検討を行うため、本アンケート調査を実施しました。

2. 調査の設計

調査地域：四條畷市全域

調査対象者：四條畷市内に住む 20 歳以上の住民 1,000 人

調査期間：平成 30 年 1 月 15 日～1 月 29 日

調査方法：郵送配布・郵送回収

3. 回収状況

回収件数：515 件（回収率：51.5%）

4. 報告書の見方

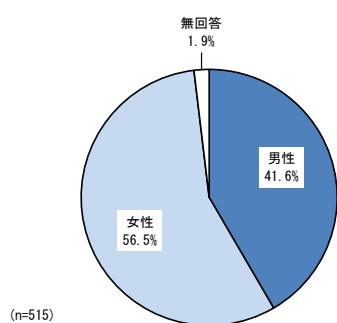
- ・回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点第 2 位を四捨五入しているため、比率の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・回答があっても、小数点第 2 位を四捨五入して 0.1%に満たず、「0.0」となる場合があります。
- ・グラフに「MA%」という表示がある場合は、複数回答を依頼した質問です。（MA は Multiple Answer の略）
- ・表中の数字は、上段が実数（件数）、下段が比率（%）を表します。
- ・図表において、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- ・サンプルが極端に少ない結果等については、解釈をする際注意を要します。

2. 市民アンケート調査結果

2. 市民アンケート調査結果

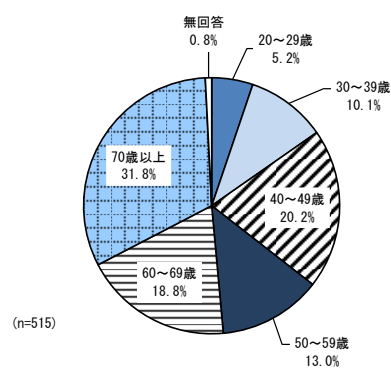
1. あなたのことについて

問1. あなたの性別はどちらですか。(1つに〇)



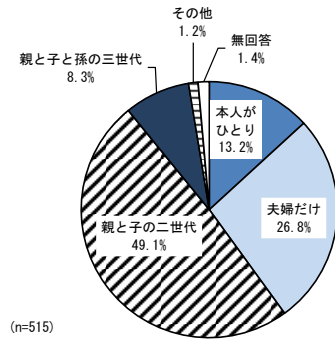
「女性」が56.5%と最も高く、次いで、「男性」が41.6%となっています。

問2. あなたの年齢は、おいくつですか。(1つに〇) ※平成30年1月1日現在



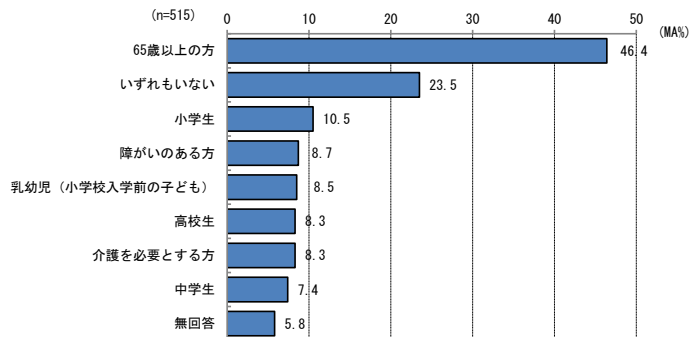
「70歳以上」が31.8%と最も高く、次いで、「40~49歳」が20.2%、「60~69歳」が18.8%、「50~59歳」が13.0%、「30~39歳」が10.1%となっています。

問3. あなたの現在の家族構成はどれですか。(1つに○)



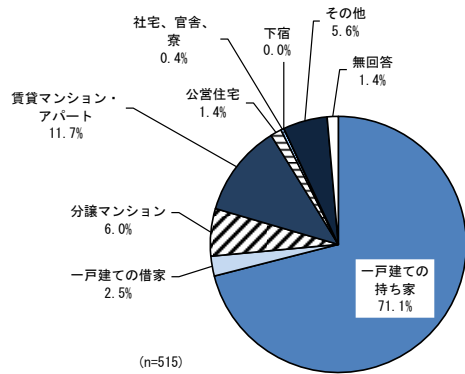
「親と子の二世帯」が49.1%と最も高く、次いで、「夫婦だけ」が26.8%、「本人がひとり」が13.2%、「親と子と孫の三世帯」が8.3%となっています。

問4. あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような方(あなた自身も含まれます。)はいいますか。(あてはまるものすべてに○)



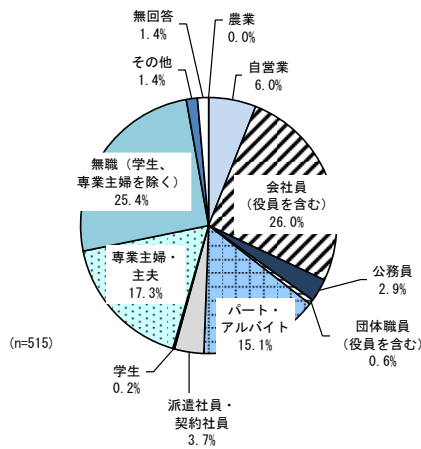
「65歳以上の方」が46.4%と最も高く、次いで、「いずれもない」が23.5%、「小学生」が10.5%、「障がいのある方」が8.7%、「乳幼児(小学校入学前の子ども)」が8.5%となっています。

問5. あなたのお住まいの形態は次のうちどれですか。（1つに○）



「一戸建ての持ち家」が71.1%と最も高く、次いで、「賃貸マンション・アパート」が11.7%、「分譲マンション」が6.0%、「一戸建ての借家」が2.5%、「公営住宅」が1.4%となっています。

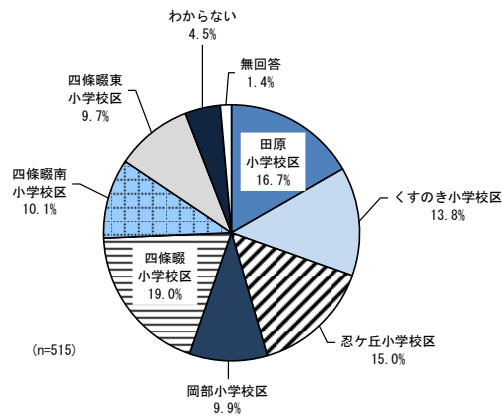
問6. あなたの現在の職業は次のどれですか。（1つに○）



「会社員 (役員を含む)」が26.0%と最も高く、次いで、「無職 (学生、専業主婦を除く)」が25.4%、「専業主婦・主夫」が17.3%、「パート・アルバイト」が15.1%、「自営業」が6.0%となっています。

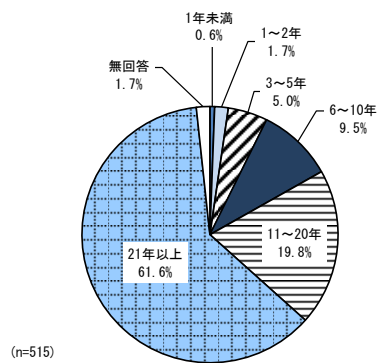
2. お住まいの地域について

問7. あなたがお住まいの小学校区はどこですか。わからない方は、〇〇町〇丁目などご記入ください。(1つに〇)



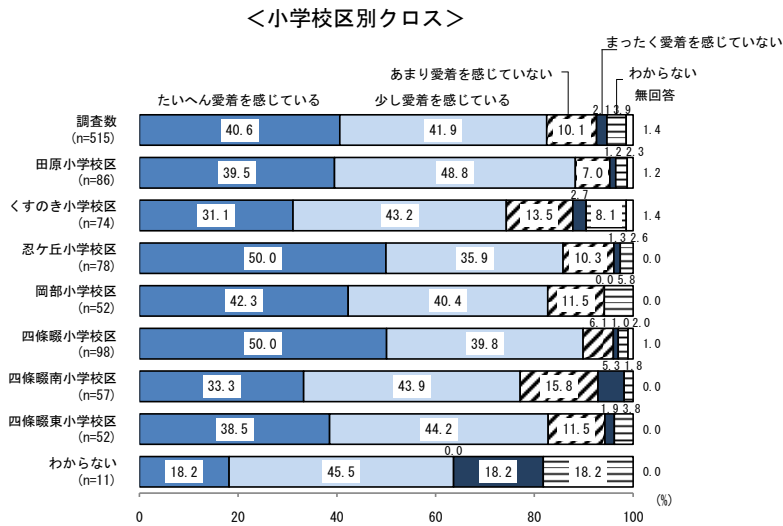
「四條畷小学校区」が19.0%と最も高く、次いで、「田原小学校区」が16.7%、「忍ヶ丘小学校区」が15.0%、「くすのき小学校区」が13.8%、「四條畷南小学校区」が10.1%となっています。

問8. 現在の小学校区にお住まいになって何年になりますか。(1つに〇)



「21年以上」が61.6%と最も高く、次いで、「11~20年」が19.8%、「6~10年」が9.5%、「3~5年」が5.0%、「1~2年」が1.7%となっています。

問9. お住まいの地域に対して、愛着を感じていますか。(1つに○)

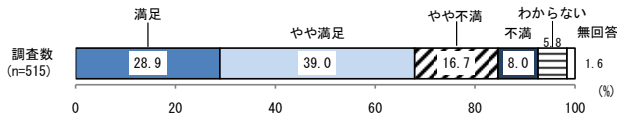


「少し愛着を感じている」が41.9%と最も高く、次いで、「たいへん愛着を感じている」が40.6%、「あまり愛着を感じていない」が10.1%、「まったく愛着を感じていない」が2.1%となっています。

また、小学校区別でみると、田原小学校区、くすのき小学校区、四條畷南小学校区、四條畷東小学校区、わからないでは「少し愛着を感じている」がそれぞれ48.8%、43.2%、43.9%、44.2%、45.5%と最も高く、忍ヶ丘小学校区、岡部小学校区、四條畷小学校区では「たいへん愛着を感じている」がそれぞれ50.0%、42.3%、50.0%と最も高くなっています。

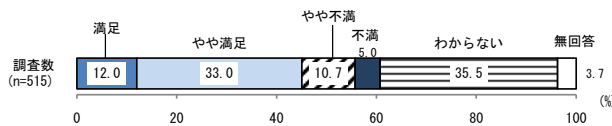
問 10. あなたが現在お住まいの地域の暮らしやすさはいかがですか。(それぞれ1つに○)

1. 近隣の生活のマナー



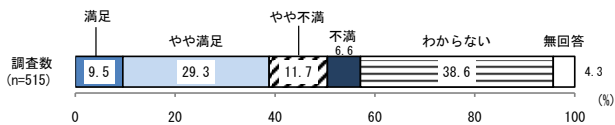
「やや満足」が39.0%と最も高く、次いで、「満足」が28.9%、「やや不満」が16.7%、「不満」が8.0%となっています。

2. 地域の防災体制



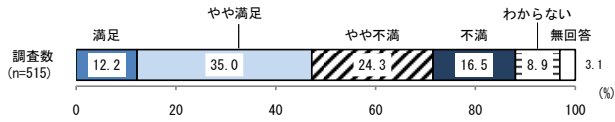
「やや満足」が33.0%と最も高く、次いで、「満足」が12.0%、「やや不満」が10.7%、「不満」が5.0%となっています。

3. 保健・福祉サービスや相談体制



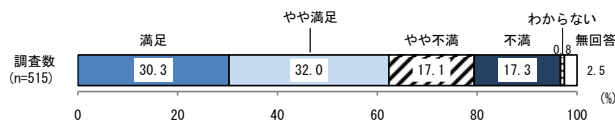
「やや満足」が29.3%と最も高く、次いで、「やや不満」が11.7%、「満足」が9.5%、「不満」が6.6%となっています。

4. 医療関係施設



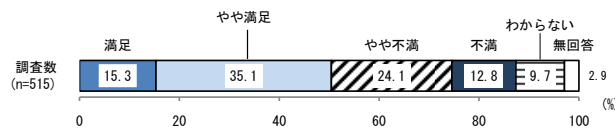
「やや満足」が35.0%と最も高く、次いで、「やや不満」が24.3%、「不満」が16.5%、「満足」が12.2%となっています。

5. 買物等の便利さ



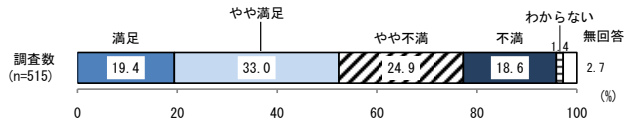
「やや満足」が32.0%と最も高く、次いで、「満足」が30.3%、「不満」が17.3%、「やや不満」が17.1%となっています。

6. 公的な手続きの便利さ



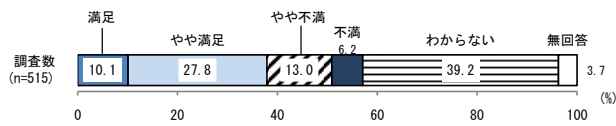
「やや満足」が35.1%と最も高く、次いで、「やや不満」が24.1%、「満足」が15.3%、「不満」が12.8%となっています。

7. 道路や交通機関等の使いやすさ



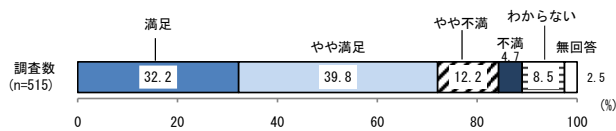
「やや満足」が33.0%と最も高く、次いで、「やや不満」が24.9%、「満足」が19.4%、「不満」が18.6%となっています。

8. 公民館活動等の文化教養活動



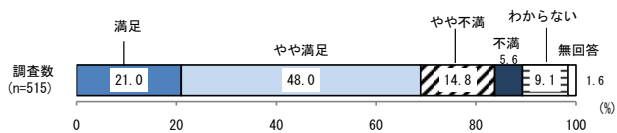
「やや満足」が27.8%と最も高く、次いで、「やや不満」が13.0%、「満足」が10.1%、「不満」が6.2%となっています。

9. 自然環境



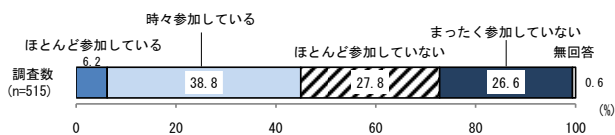
「やや満足」が39.8%と最も高く、次いで、「満足」が32.2%、「やや不満」が12.2%、「不満」が4.7%となっています。

10. 地域の雰囲気やイメージ



「やや満足」が48.0%と最も高く、次いで、「満足」が21.0%、「やや不満」が14.8%、「不満」が5.6%となっています。

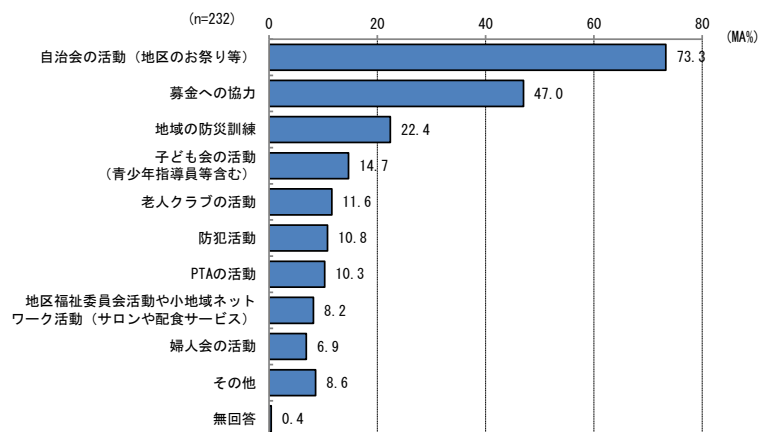
問 11. あなたは、お住まいの地域の行事や活動にどの程度参加していますか。(1つに○)



「時々参加している」が38.8%と最も高く、次いで、「ほとんど参加していない」が27.8%、「まったく参加していない」が26.6%、「ほとんど参加している」が6.2%となっています。

問 11-1. 問 11で「1. ほとんど参加している」「2. 時々参加している」と回答した方にお尋ねします。

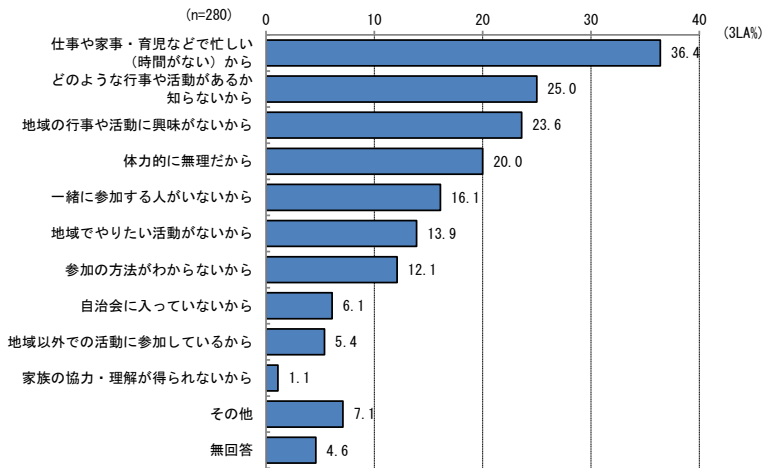
どのような行事や活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)



「自治会の活動 (地区のお祭り等)」が 73.3%と最も高く、次いで、「募金への協力」が 47.0%、「地域の防災訓練」が 22.4%、「子ども会の活動 (青少年指導員等含む)」が 14.7%、「老人クラブの活動」が 11.6%となっています。

問 11-2. 問 11 で「3. ほとんど参加していない」「4. まったく参加していない」と回答した方にお尋ねします。

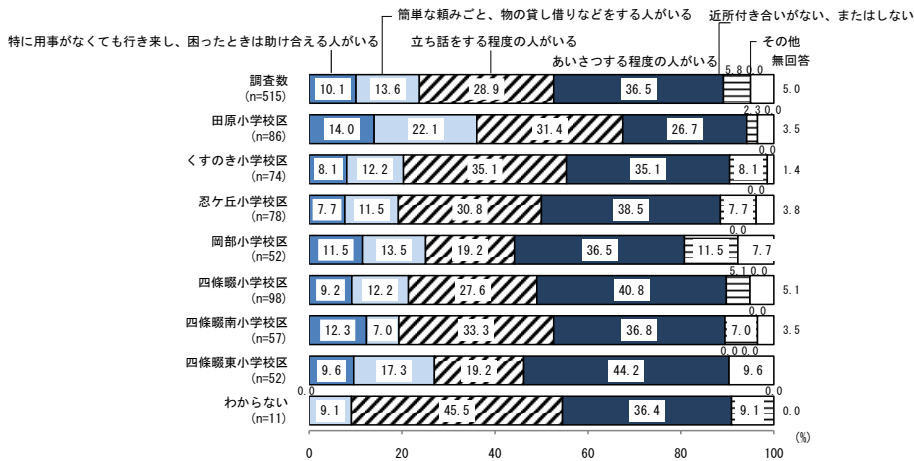
参加していない理由をお答えください。(〇は3つまで)



「仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から」が36.4%と最も高く、次いで、「どのような行事や活動があるか知らないから」が25.0%、「地域の行事や活動に興味がないから」が23.6%、「体力的に無理だから」が20.0%、「一緒に参加する人がいないから」が16.1%となっています。

問 12. あなたとご近所の人とは、どの程度の付き合いをしていますか。（1つに○）

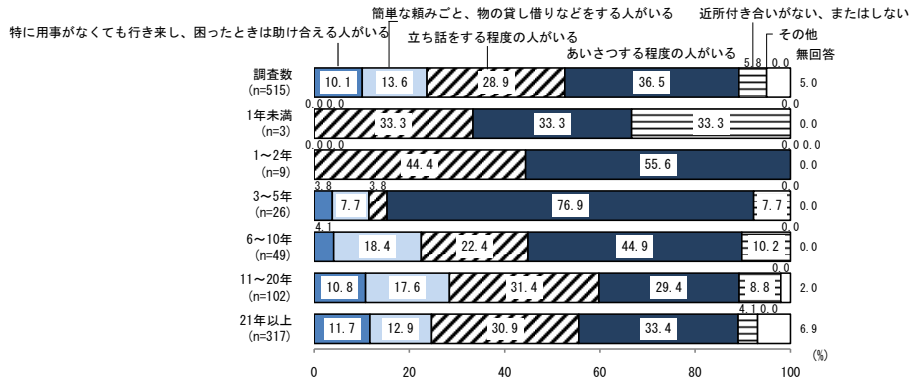
<小学校区別クロス>



「あいさつする程度の人がある」が36.5%と最も高く、次いで、「立ち話をする程度の人がある」が28.9%、「簡単な頼みごと、物の貸し借りなどをする人がある」が13.6%、「特に用事がなくても行き来し、困ったときは助け合える人がある」が10.1%、「近所付き合いがない、またはしない」が5.8%となっています。

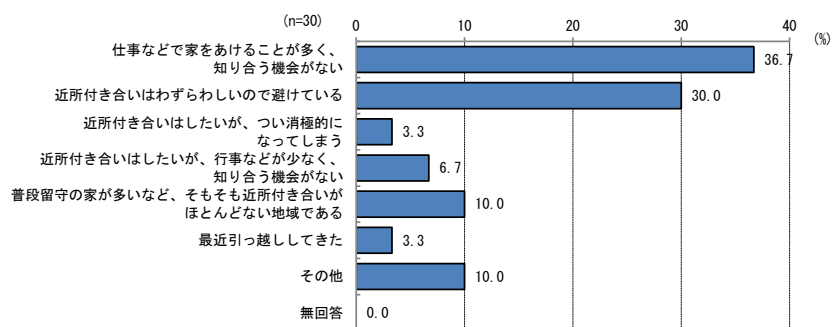
また、小学校区別でみると、田原小学校区、わからないでは「立ち話をする程度の人がある」がそれぞれ31.4%、45.5%と最も高く、くすのき小学校区では「立ち話をする程度の人がある」と「あいさつする程度の人がある」が35.1%と最も高く、忍ヶ丘小学校区、岡部小学校区、四條畷小学校区、四條畷南小学校区、四條畷東小学校区では「あいさつする程度の人がある」がそれぞれ38.5%、36.5%、40.8%、36.8%、44.2%と最も高くなっています。

<居住年数別クロス>



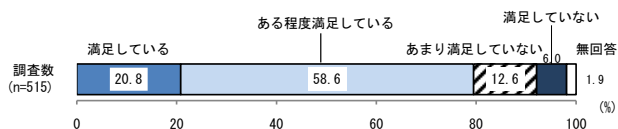
居住年数別でみると、1年未満では「立ち話をする程度の人がある」と「あいさつする程度の人がある」、「近所付き合いがない、またはしない」が33.3%と最も高く、1~2年、3~5年、6~10年、21年以上では「あいさつする程度の人がある」がそれぞれ55.6%、76.9%、44.9%、33.4%と最も高く、11~20年では「立ち話をする程度の人がある」が31.4%と最も高くなっています。

問 12-1. 問 12 で「5. 近所付き合いがない、またはしない」と回答した方にお尋ねします。
 あまり近所付き合いをしない理由は何ですか。（1つに○）



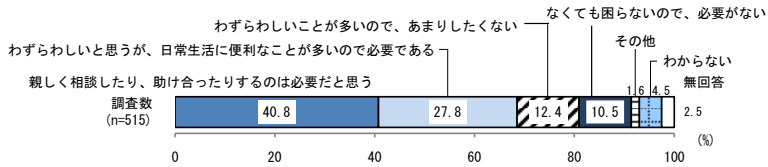
「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」が36.7%と最も高く、次いで、「近所付き合いはわずらわしいので避けている」が30.0%、「普段留守の家が多いなど、そもそも近所付き合いがほとんどない地域である」が10.0%、「近所付き合いはしたいが、行事などが少なく、知り合う機会がない」が6.7%、「近所付き合いはしたいが、つい消極的になってしまう」、「最近引っ越ししてきた」がそれぞれ3.3%となっています。

問 13. あなたは今の近所付き合いに満足していますか。（1つに○）



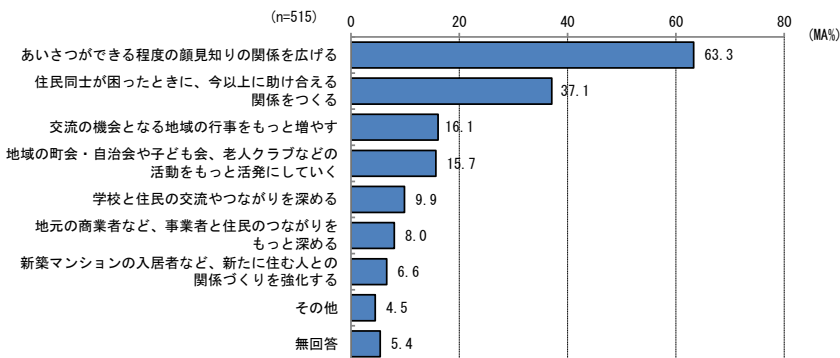
「ある程度満足している」が58.6%と最も高く、次いで、「満足している」が20.8%、「あまり満足していない」が12.6%、「満足していない」が6.0%となっています。

問 14. あなたの近所付き合いの考え方は、次のどれに近いですか。（1つに○）



「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う」が40.8%と最も高く、次いで、「わずらわしいと思うが、日常生活に便利なことが多いので必要である」が27.8%、「わずらわしいことが多いので、あまりしたくない」が12.4%、「なくても困らないので、必要がない」が10.5%となっています。

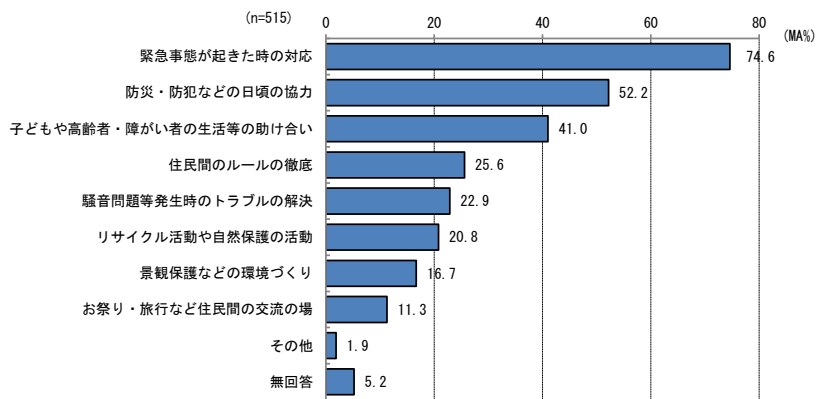
問 15. お住まいの地域で、地域活動や近所付き合いがもっと活発に行われるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が63.3%と最も高く、次いで、「住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係をつくる」が37.1%、「交流の機会となる地域の行事をもっと増やす」が16.1%、「地域の町会・自治会や子ども会、老人クラブなどの活動をもっと活発にしていく」が15.7%、「学校と住民の交流やつながりを深める」が9.9%となっています。

問 16. あなたは地域社会の役割についてどのようなことを期待しますか。

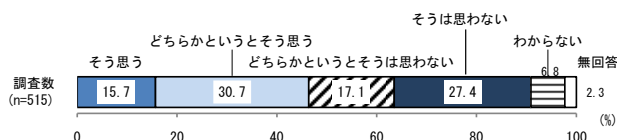
(あてはまるものすべてに○)



「緊急事態が起きた時の対応」が74.6%と最も高く、次いで、「防災・防犯などの日頃の協力」が52.2%、「子どもや高齢者・障がい者の生活等の助け合い」が41.0%、「住民間のルールの徹底」が25.6%、「騒音問題等発生時のトラブルの解決」が22.9%となっています。

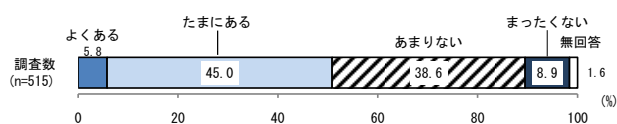
3. こころの健康について

問 17. あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。（1つに○）



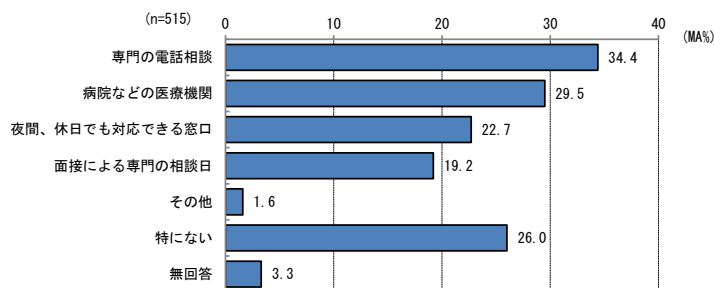
「どちらかというと思う」が30.7%と最も高く、次いで、「そうは思わない」が27.4%、「どちらかというとは思わない」が17.1%、「そう思う」が15.7%となっています。

問 18. あなたは、気分がひどく落ち込むことがありますか。（1つに○）



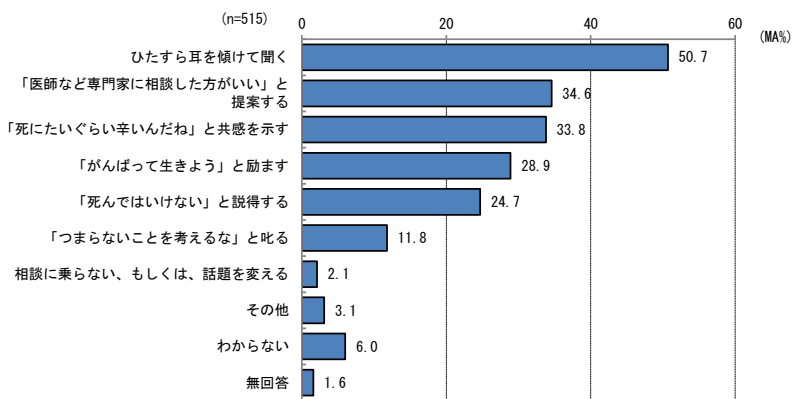
「たまにある」が45.0%と最も高く、次いで、「あまりない」が38.6%、「まったくない」が8.9%、「よくある」が5.8%となっています。

問 19. 今後、こころの問題の相談として、どのようなものがあればいいですか。（あてはまるものすべてに○）



「専門の電話相談」が34.4%と最も高く、次いで、「病院などの医療機関」が29.5%、「夜間、休日でも対応できる窓口」が22.7%、「面接による専門の相談日」が19.2%となっています。

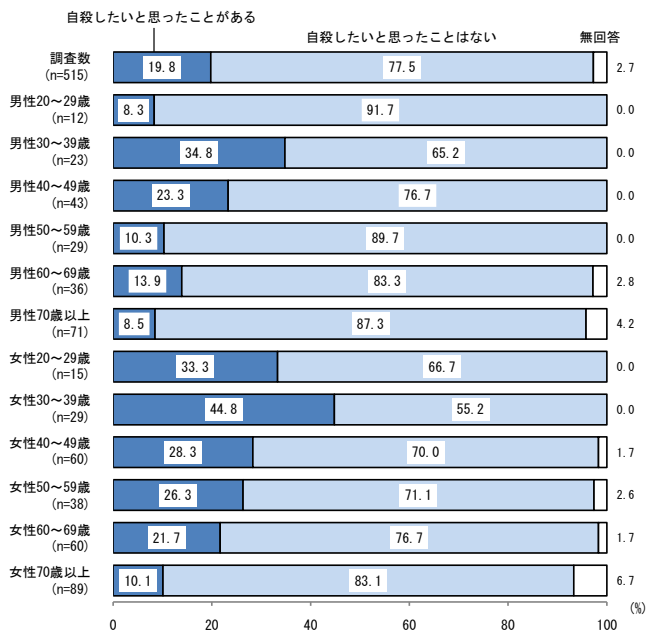
問 20. あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのがいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



「ひたすら耳を傾けて聞く」が50.7%と最も高く、次いで、「「医師など専門家に相談した方がいい」と提案する」が34.6%、「「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す」が33.8%、「「がんばって生きよう」と励ます」が28.9%、「「死んではいけない」と説得する」が24.7%となっています。

問 21. あなたは、これまでの人生のなかで本気で自殺したいと考えたことがありますか。
(1つに○)

<性年代別クロス>



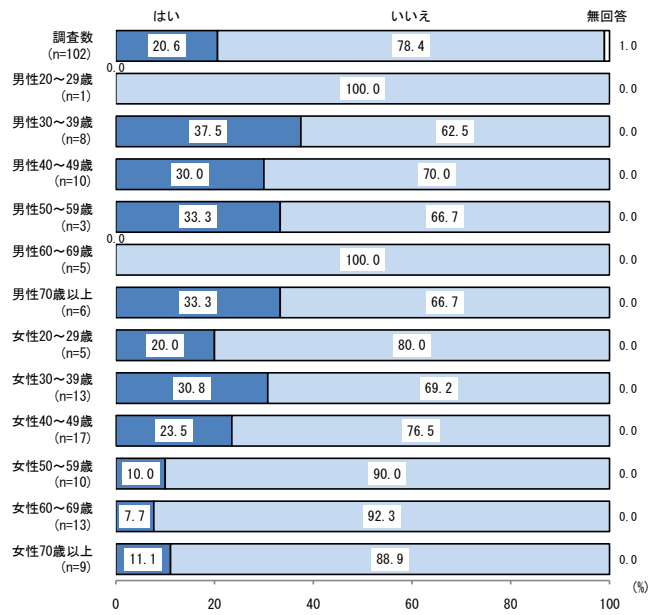
「自殺したいと思ったことはない」が77.5%と最も高く、次いで、「自殺したいと思ったことがある」が19.8%となっています。

また、性年代別でみると、すべてのカテゴリーで「自殺したいと思ったことはない」が高く、男性20～29歳では91.7%、男性30～39歳では65.2%、男性40～49歳では76.7%、男性50～59歳では89.7%、男性60～69歳では83.3%、男性70歳以上では87.3%、女性20～29歳では66.7%、女性30～39歳では55.2%、女性40～49歳では70.0%、女性50～59歳では71.1%、女性60～69歳では76.7%、女性70歳以上では83.1%となっています。

問 21-1. 問 21 で「1. 自殺したいと思ったことがある」と回答した方にお尋ねします。

最近 1 年以内に自殺したいと思ったことがありますか。(1つに○)

<性年代別クロス>



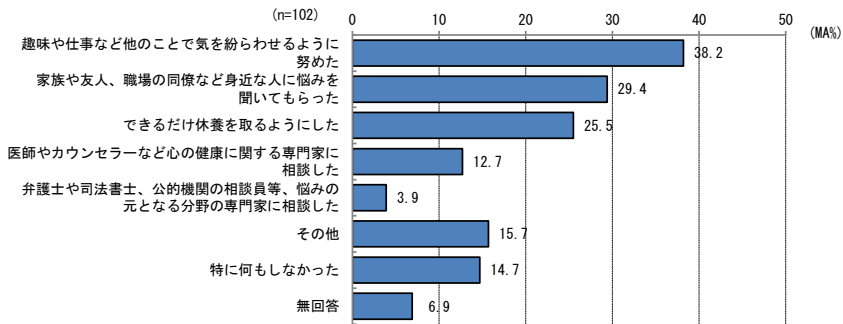
「いいえ」が 78.4%と最も高く、次いで、「はい」が 20.6%となっています。

また、性年代別でみると、すべてのカテゴリーで「いいえ」が高く、男性 20～29 歳では 100.0%、男性 30～39 歳では 62.5%、男性 40～49 歳では 70.0%、男性 50～59 歳では 66.7%、男性 60～69 歳では 100.0%、男性 70 歳以上では 66.7%、女性 20～29 歳では 80.0%、女性 30～39 歳では 69.2%、女性 40～49 歳では 76.5%、女性 50～59 歳では 90.0%、女性 60～69 歳では 92.3%、女性 70 歳以上では 88.9%となっています。

問 21- 2. 問 21 で「1. 自殺したいと思ったことがある」と回答した方にお尋ねします。

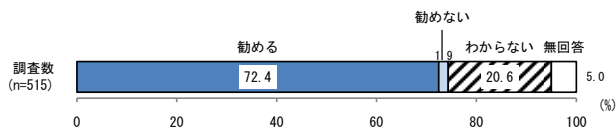
「自殺したい」と考えたとき、どのようにして乗り越えましたか。

(あてはまるものすべてに○)



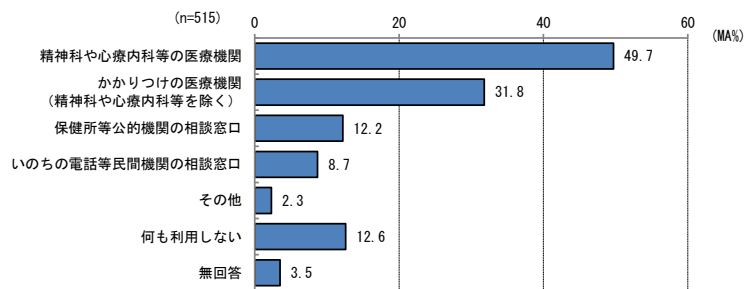
「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努力した」が38.2%と最も高く、次いで、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が29.4%、「できるだけ休養を取るようにした」が25.5%、「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した」が12.7%、「弁護士や司法書士、公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した」が3.9%となっています。

問 22. もし仮に、あなたが、今あなたの家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めますか。(1つに○)



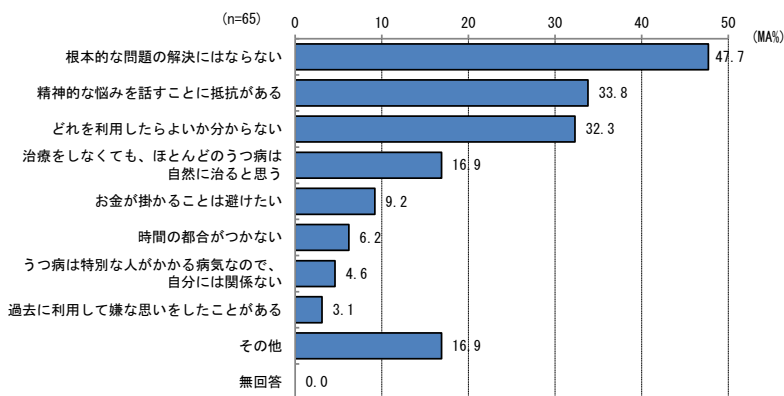
「勧める」が72.4%と最も高く、次いで、「勧めない」が1.9%となっています。

問 23. もし仮に、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



「精神科や心療内科等の医療機関」が49.7%と最も高く、次いで、「かかりつけの医療機関 (精神科や心療内科等を除く)」が31.8%、「保健所等公的機関の相談窓口」が12.2%、「いのちの電話等民間機関の相談窓口」が8.7%となっています。

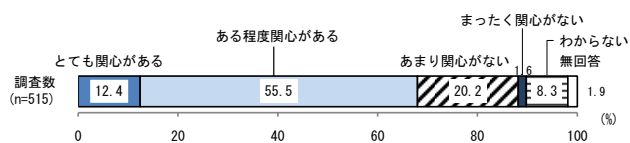
問 23-1. 問 23 で「6. 何も利用しない」と回答した方にお尋ねします。
何も利用しないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)



「根本的な問題の解決にはならない」が47.7%と最も高く、次いで、「精神的な悩みを話すことに抵抗がある」が33.8%、「どれを利用したらよいか分からない」が32.3%、「治療をしなくても、ほとんどのうつ病は自然に治ると思う」が16.9%、「お金が掛かることは避けたい」が9.2%となっています。

4. 生活課題や地域の福祉について

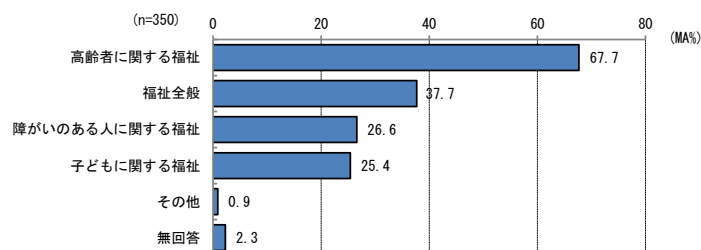
問 24. あなたは福祉に関心がありますか。（1つに○）



「ある程度関心がある」が55.5%と最も高く、次いで、「あまり関心がない」が20.2%、「とても関心がある」が12.4%、「まったく関心がない」が1.6%となっています。

問 24-1. 問 24 で「1. とても関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方にお尋ねします。

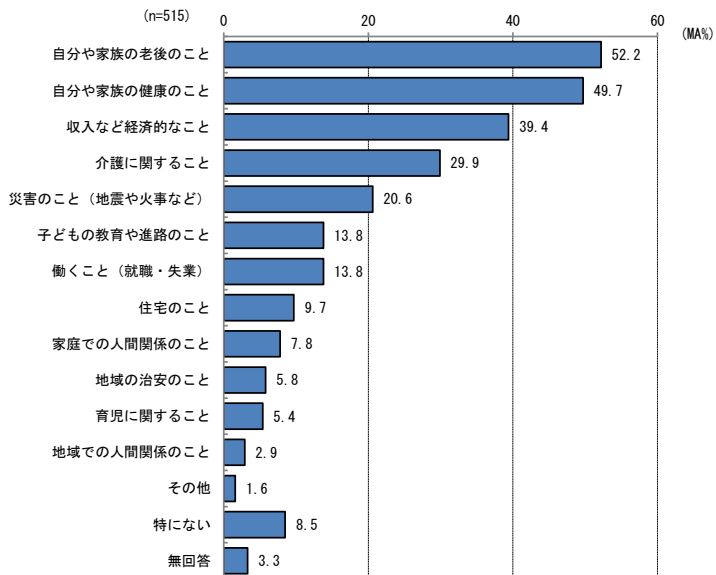
関心がある福祉はどのような分野ですか。（あてはまるものすべてに○）



「高齢者に関する福祉」が67.7%と最も高く、次いで、「福祉全般」が37.7%、「障がいのある人に関する福祉」が26.6%、「子どもに関する福祉」が25.4%となっています。

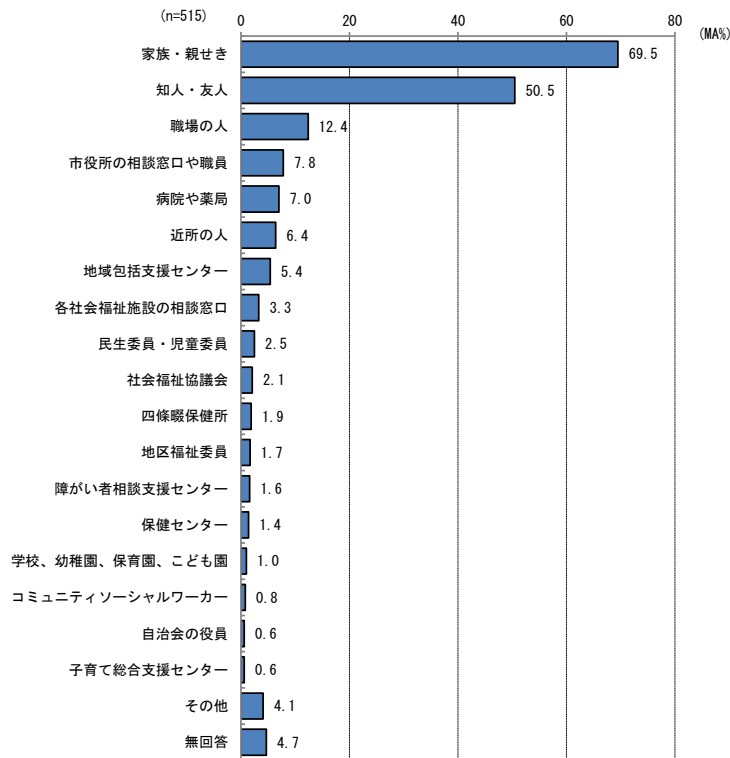
問 25. あなたは現在、どのような悩みや不安を感じていますか。

(あてはまるものすべてに○)



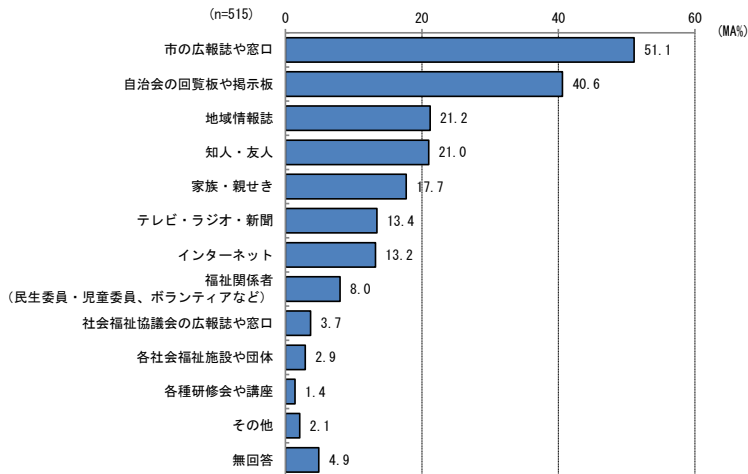
「自分や家族の老後のこと」が52.2%と最も高く、次いで、「自分や家族の健康のこと」が49.7%、「収入など経済的なこと」が39.4%、「介護に関すること」が29.9%、「災害のこと (地震や火事など)」が20.6%となっています。

問 26. 日々の暮らしの中で、悩みや不安を感じたとき、どこに相談しますか。
 (あてはまるものすべてに○)



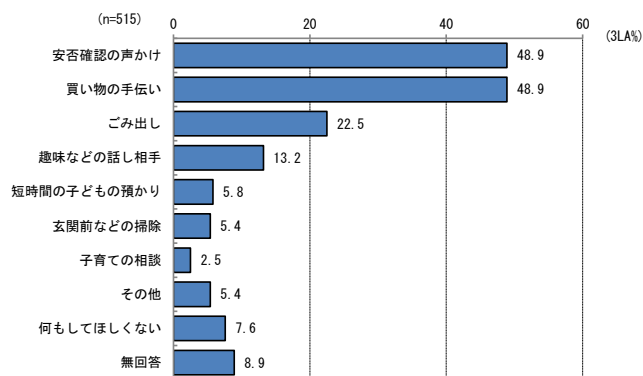
「家族・親せき」が69.5%と最も高く、次いで、「知人・友人」が50.5%、「職場の人」が12.4%、「市役所の相談窓口や職員」が7.8%、「病院や薬局」が7.0%となっています。

問 27. あなたは、福祉サービスに関する情報や地域の行事・イベントに関する情報をどのようにして入手していますか。(あてはまるものすべてに○)



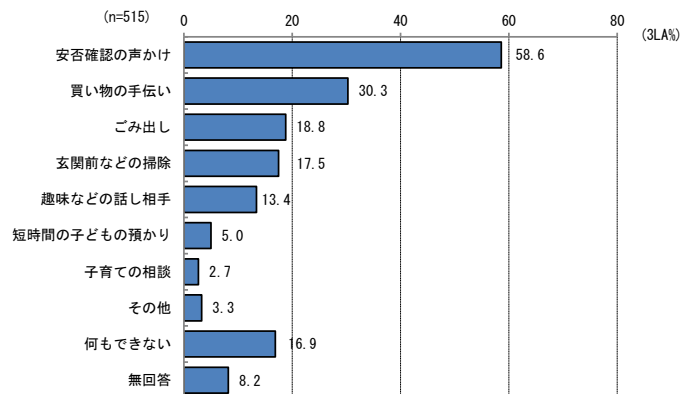
「市の広報誌や窓口」が 51.1%と最も高く、次いで、「自治会の回覧板や掲示板」が 40.6%、「地域情報誌」が 21.2%、「知人・友人」が 21.0%、「家族・親せき」が 17.7%となっています。

問 28. あなたは、日常生活が不自由になったとき(例：高齢、病気、事故など)、地域でどのような援助をしてほしいと思いますか。(○は3つまで)



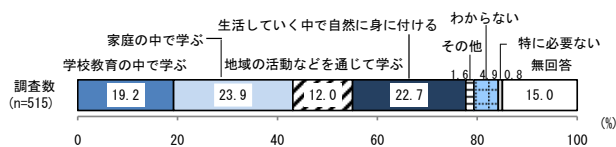
「安否確認の声かけ」、「買い物の手伝い」がそれぞれ 48.9%と最も高く、次いで、「ごみ出し」が 22.5%、「趣味などの話し相手」が 13.2%、「短時間の子どもの預かり」が 5.8%、「玄関前などの掃除」が 5.4%となっています。

問 29. 隣近所に、高齢者、障がい者の介護や子育てなどで困っている人（家庭）があった場合、あなたはどのような援助ができると思いますか。（〇は3つまで）



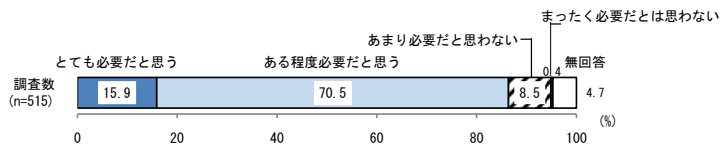
「安否確認の声かけ」が58.6%と最も高く、次いで、「買い物の手伝い」が30.3%、「ごみ出し」が18.8%、「玄関前などの掃除」が17.5%、「趣味などの話し相手」が13.4%となっています。

問 30. 子どもたちに対する福祉教育（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育）について、あなたが最も大切だと思うものは何ですか。（1つに〇）



「家庭の中で学ぶ」が23.9%と最も高く、次いで、「生活していく中で自然に身に付ける」が22.7%、「学校教育の中で学ぶ」が19.2%、「地域の活動などを通じて学ぶ」が12.0%となっています。

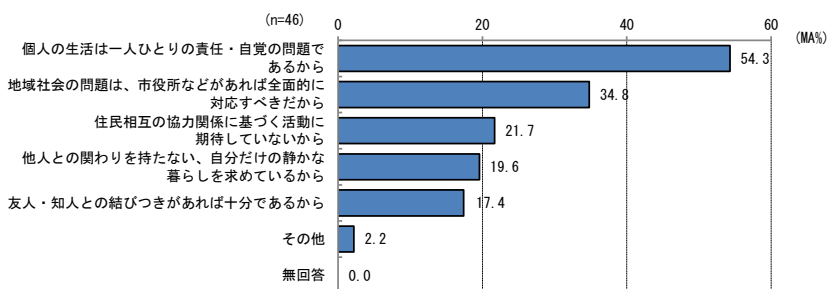
問 31. あなたは、生活上の困り事など地域の福祉の問題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いについて、どの程度必要だと思いますか。（1つに○）



「ある程度必要だと思う」が70.5%と最も高く、次いで、「とても必要だと思う」が15.9%、「あまり必要だと思わない」が8.5%、「まったく必要だとは思わない」が0.4%となっています。

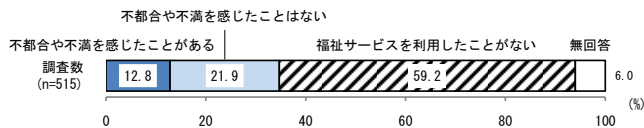
問 31-1. 問 31 で「3. あまり必要だと思わない」「4. まったく必要だとは思わない」と回答した方にお尋ねします。

必要だと思わない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



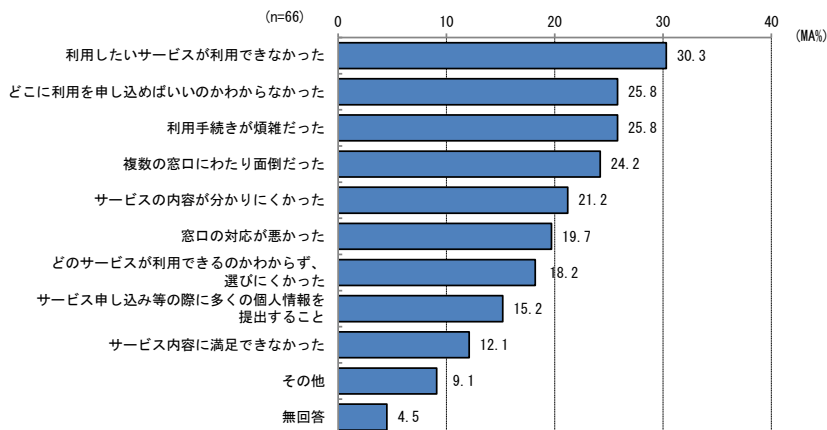
「個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」が54.3%と最も高く、次いで、「地域社会の問題は、市役所などがあれば全面的に対応すべきだから」が34.8%、「住民相互の協力関係に基づく活動に期待していないから」が21.7%、「他人との関わりを持たない、自分だけの静かな暮らしを求めているから」が19.6%、「友人・知人との結びつきがあれば十分であるから」が17.4%となっています。

問 32. あなたやご家族は福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり不満に思ったことはありませんか。（1つに○）



「福祉サービスを利用したことがない」が59.2%と最も高く、次いで、「不都合や不満を感じたことはない」が21.9%、「不都合や不満を感じたことがある」が12.8%となっています。

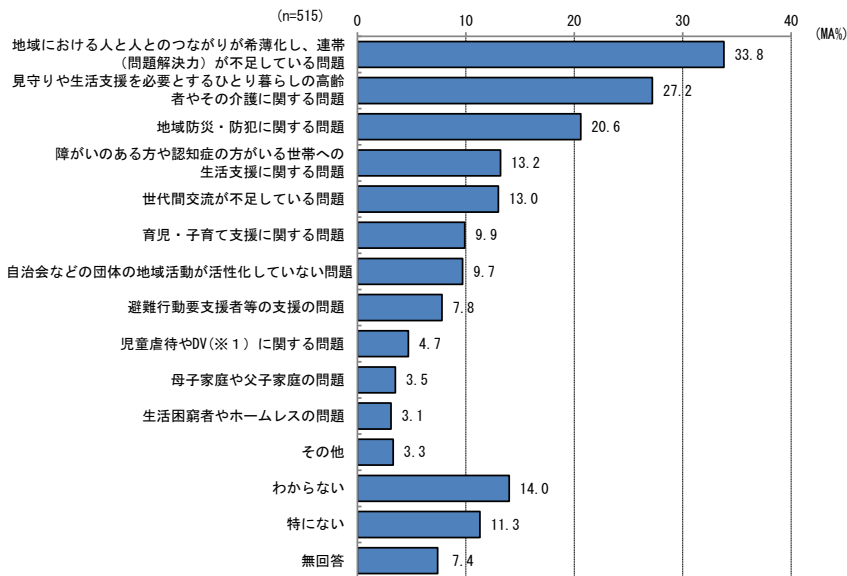
問 32-1. 問 32 で「1. 不都合や不満を感じたことがある」と回答した方にお尋ねします。
不都合を感じたり、不満に思ったのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)



「利用したいサービスが利用できなかった」が30.3%と最も高く、次いで、「どこに利用を申し込めばいいのかわからなかった」、「利用手続きが煩雑だった」がそれぞれ25.8%、「複数の窓口にわたり面倒だった」が24.2%、「サービスの内容が分かりにくかった」が21.2%、「窓口の対応が悪かった」が19.7%となっています。

問 33. 現在あなたがお住まいの地域やその周辺では、安心して生活していく上で、どのような問題や課題があると感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

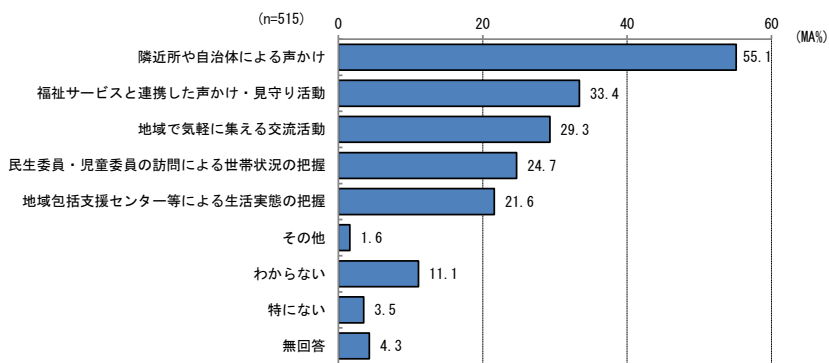
コメントの追加 [平山1]: DVの説明（※1）を入れる



（※1）DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、配偶者やパートナーとの間で起こる身体的、精神的、経済的暴力全般を指します。

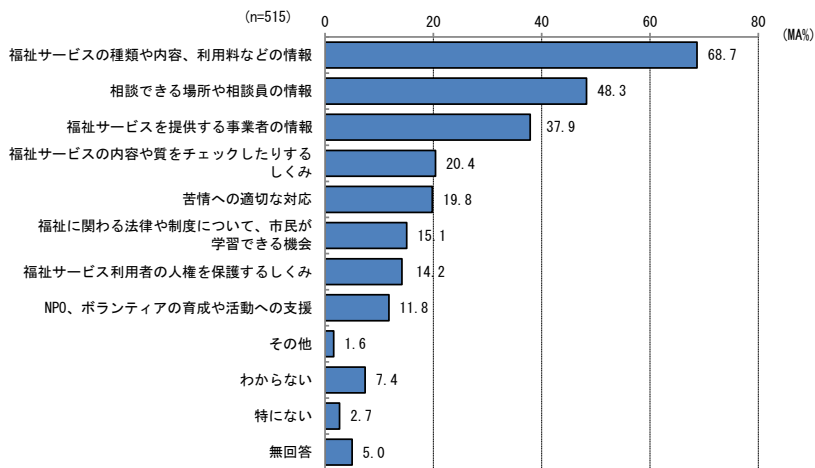
「地域における人と人とのつながりが希薄化し、連帯（問題解決力）が不足している問題」が33.8%と最も高く、次いで、「見守りや生活支援を必要とするひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」が27.2%、「地域防災・防犯に関する問題」が20.6%、「障がいのある方や認知症の方がいる世帯への生活支援に関する問題」が13.2%、「世代間交流が不足している問題」が13.0%となっています。

問 34. 地域や社会からの孤立を防ぐために、どのような取り組みが有効だと考えられますか。
 (あてはまるものすべてに○)



「隣近所や自治体による声かけ」が55.1%と最も高く、次いで、「福祉サービスと連携した声かけ・見守り活動」が33.4%、「地域で気軽に集える交流活動」が29.3%、「民生委員・児童委員の訪問による世帯状況の把握」が24.7%、「地域包括支援センター等による生活実態の把握」が21.6%となっています。

問 35. 福祉サービスを安心して利用できる状況をつくるために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

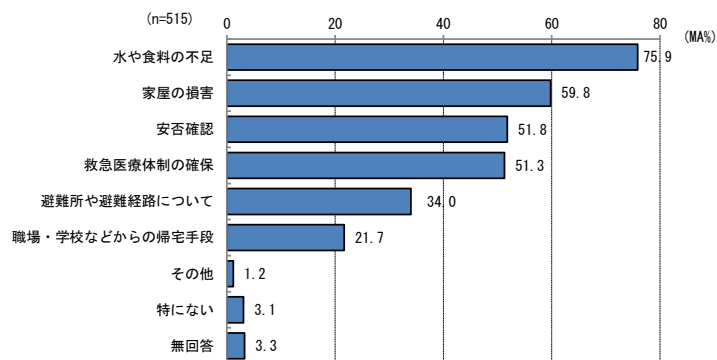


「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」が68.7%と最も高く、次いで、「相談できる場所や相談員の情報」が48.3%、「福祉サービスを提供する事業者の情報」が37.9%、「福祉サービスの内容や質をチェックしたりするしくみ」が20.4%、「苦情への適切な対応」が19.8%となっています。

5. 地震や風水害などが起こった時の考え方について

問 36. 地震や風水害などの災害時の対策について、不安に感じることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)



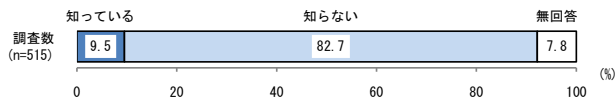
「水や食料の不足」が75.9%と最も高く、次いで、「家屋の損害」が59.8%、「安否確認」が51.8%、「救急医療体制の確保」が51.3%、「避難所や避難経路について」が34.0%となっています。

問 37. あなたは、四條畷市避難行動要支援者支援プラン（なわて災害時地域支えあい制度）

（※2）についてご存知ですか。（1つに○）

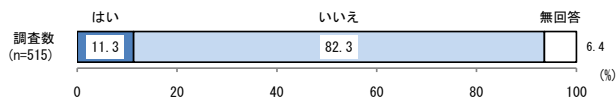
（※2） 災害時に、在宅で生活している自力避難が困難で支援が必要な高齢者や障がい者等（※3）のうち、同意を得た方の個人情報を特定の範囲の地域の人々にあらかじめ名簿として配布するものです。災害に関する情報の伝達や避難などの手助けが、地域の中で速やかに安全に行われることを目的とした共助の取り組みを推進する制度です。

（※3） 「自力避難が困難で支援が必要な高齢者や障がい者等」の主な対象をこのプランでは、「要介護3～5の方」「身体障がい者手帳1、2級の第1種・療育手帳A・精神障がい者保健福祉手帳1級のいずれかを所持している方」「障がい者総合支援法に基づくサービスを受けている難病患者」としています。



「知らない」が82.7%と最も高く、次いで、「知っている」が9.5%となっています。

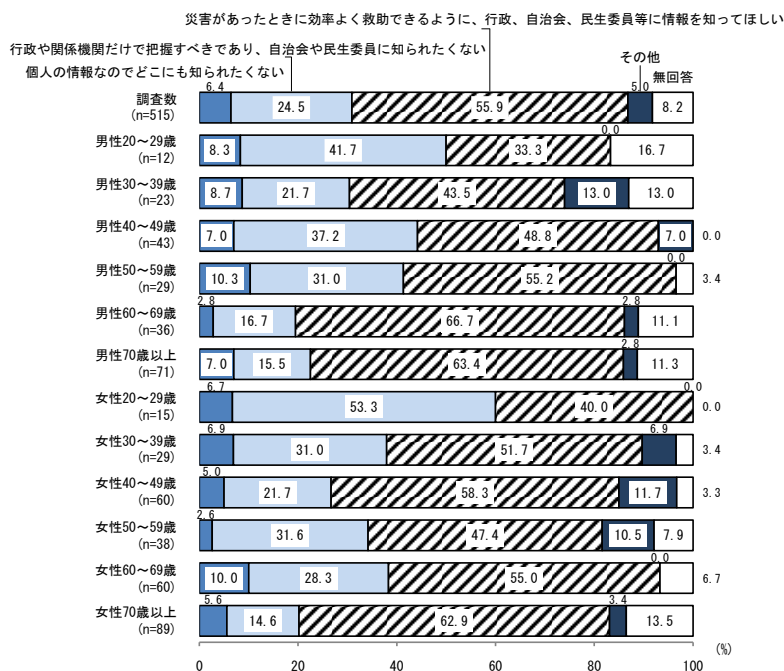
問 37-1. あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、自力避難が困難で支援が必要な高齢者や障がい者等（あなた自身も含まれます。）はいますか。（1つに○）



「いいえ」が82.3%と最も高く、次いで、「はい」が11.3%となっています。

問 38. 地震や風水害などの災害が発生し自力で避難することが難しい場合、近隣に援助を
求めるためには、あなたの個人情報を地域の方々（自治会、民生委員・児童委員、
地区福祉委員、自主防災組織など）が事前に把握しておくことが必要であると考
えられます。あなたは、どのように思いますか。（1つに○）

<性年代別クロス>



「災害があったときに効率よく救助できるように、行政、自治会、民生委員等に情報を知ってほしい。」が55.9%と最も高く、次いで、「行政や関係機関だけで把握すべきであり、自治会や民生委員に知られたくない。」が24.5%、「個人の情報なのでどこにも知られたくない」が6.4%となっています。

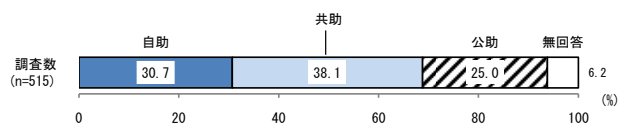
また、性年代別でみると、男性20～29歳、女性20～29歳では「行政や関係機関だけで把握すべきであり、自治会や民生委員に知られたくない」がそれぞれ41.7%、53.3%と最も高く、男性30～39歳、男性40～49歳、男性50～59歳、男性60～69歳、男性70歳以上、女性30～39歳、女性40～49歳、女性50～59歳、女性60～69歳、女性70歳以上では「災害があったときに効率よく救助できるように、行政、自治会、民生委員等に情報を知ってほしい」がそれぞれ43.5%、48.8%、55.2%、66.7%、63.4%、51.7%、58.3%、47.4%、55.0%、62.9%と最も高くなっています。

問 39. 災害時に自分や家族の命を守るために最も重要なのは、自助・共助・公助（※4）のうち、どれだと思いますか（1つに○）

（※4）「自助」自分で自分の身を守ること。非常袋の準備、避難経路の確認、自力で避難など。

「共助」地域の方々と助け合うこと。地区内で安否確認、日頃からの声掛けなど。

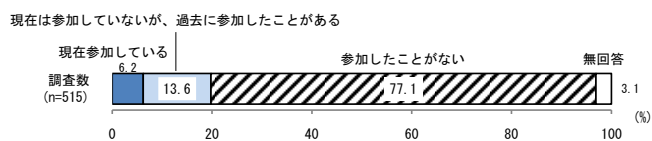
「公助」行政機関等による救助のこと。救援物資の配布、避難所の開設など。



「共助」が38.1%と最も高く、次いで、「自助」が30.7%、「公助」が25.0%となっています。

6. ボランティア活動について

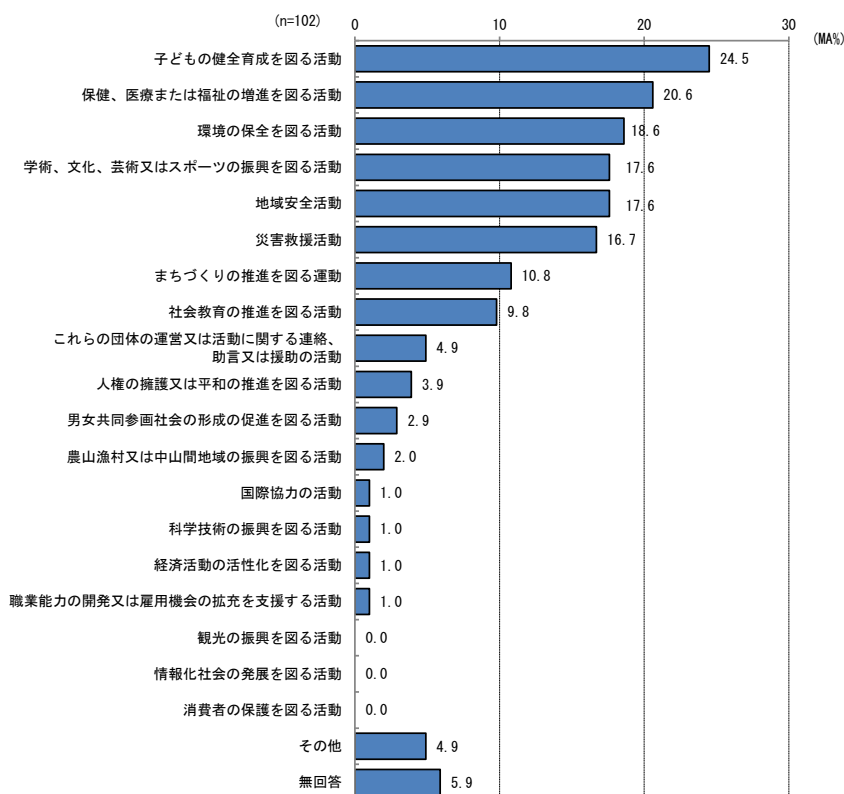
問 40. 問 11-1 でお尋ねした地域での活動以外にも福祉、青少年健全育成や文化振興など一定の目的を持って行うさまざまなボランティア活動があります。あなたは、これまでこのようなボランティア活動に参加したことがありますか。（1つに○）



「参加したことがない」が 77.1%と最も高く、次いで、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」が 13.6%、「現在参加している」が 6.2%となっています。

問 40-1. 問 40 で「1. 現在参加している」「2. 現在は参加していないが、過去に参加したことがある」と回答された方にお尋ねします。

あなたが参加している（参加した）ボランティア活動はどのような分野ですか。
（あてはまるものすべてに○）

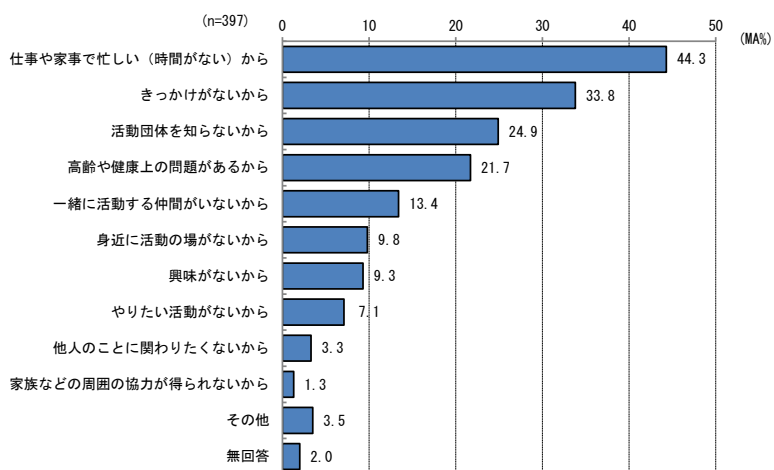


「子どもの健全育成を図る活動」が24.5%と最も高く、次いで、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」が20.6%、「環境の保全を図る活動」が18.6%、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」、「地域安全活動」がそれぞれ17.6%、「災害救援活動」が16.7%となっています。

問 40-2. 問 40 で「3. 参加したことがない」を回答された方にお尋ねします。

ボランティア活動に参加したことがない理由は何ですか。

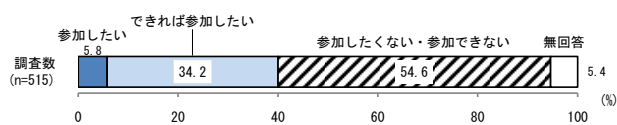
(あてはまるものすべてに○)



「仕事や家事で忙しい(時間がない)から」が44.3%と最も高く、次いで、「きっかけがないから」が33.8%、「活動団体を知らないから」が24.9%、「高齢や健康上の問題があるから」が21.7%、「一緒に活動する仲間がないから」が13.4%となっています。

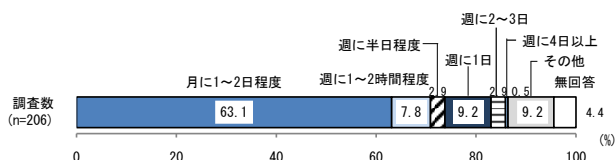
問 41. あなたは、今後もしくはこれからもボランティア活動に参加したいと思いますか。

(1つに○)



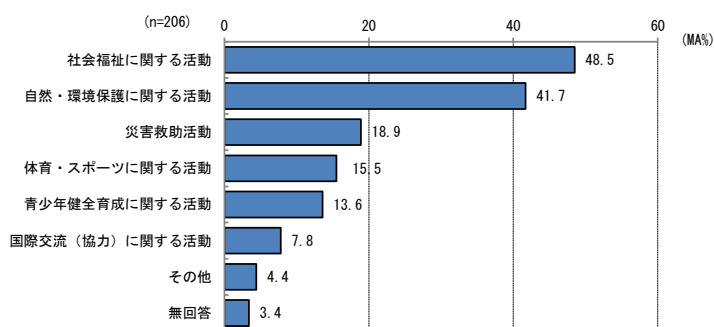
「参加したくない・参加できない」が54.6%と最も高く、次いで、「できれば参加したい」が34.2%、「参加したい」が5.8%となっています。

問 41- 1. 問41で「1. 参加したい」「2. できれば参加したい」と回答した方にお尋ねします。
どのくらいの時間なら活動に参加できますか。（1つに○）



「月に1~2日程度」が63.1%と最も高く、次いで、「週に1日」が9.2%、「週に1~2時間程度」が7.8%、「週に半日程度」、「週に2~3日」がそれぞれ2.9%、「週に4日以上」が0.5%となっています。

問 41- 2. 問41で「1. 参加したい」「2. できれば参加したい」と回答した方にお尋ねします。
どのような活動に参加したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

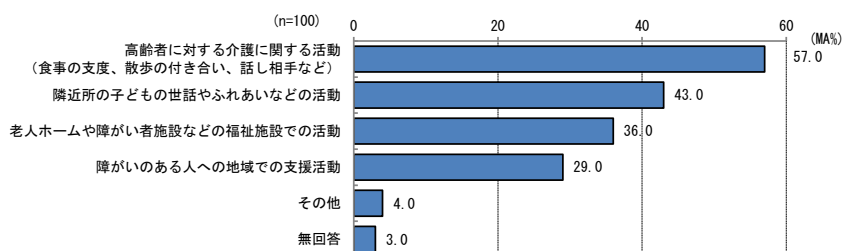


「社会福祉に関する活動」が48.5%と最も高く、次いで、「自然・環境保護に関する活動」が41.7%、「災害救助活動」が18.9%、「体育・スポーツに関する活動」が15.5%、「青少年健全育成に関する活動」が13.6%となっています。

問 41-2-1. 問 41-2 で「1. 社会福祉に関する活動」と回答した方にお尋ねします。

どのような社会福祉活動に参加したいと思いますか。

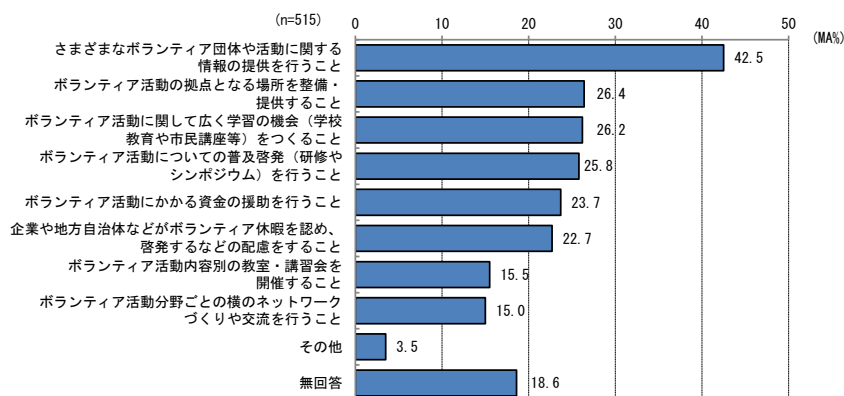
(あてはまるものすべてに○)



「高齢者に対する介護に関する活動 (食事の支度、散歩の付き合い、)」が 57.0%と最も高く、次いで、「隣近所の子どもの世話やふれあいなどの活動」が 43.0%、「老人ホームや障がい者施設などの福祉施設での活動」が 36.0%、「障がいのある人への地域での支援活動」が 29.0%となっています。

問 42. 今後、ボランティア活動を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

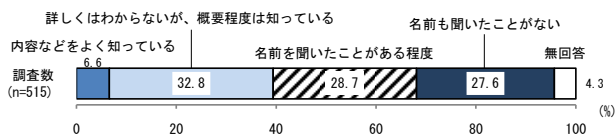


「さまざまなボランティア団体や活動に関する情報の提供を行うこと」が 42.5%と最も高く、次いで、「ボランティア活動の拠点となる場所を整備・提供すること」が 26.4%、「ボランティア活動に関して広く学習の機会 (学校教育や市民講座等) をつくること」が 26.2%、「ボランティア活動についての普及啓発 (研修やシンポジウム) を行うこと」が 25.8%、「ボランティア活動にかかる資金の援助を行うこと」が 23.7%となっています。

7. 地域福祉にかかわる機関や団体、しくみについて

問 43. あなたは成年後見制度（※5）を知っていますか。（1つに○）

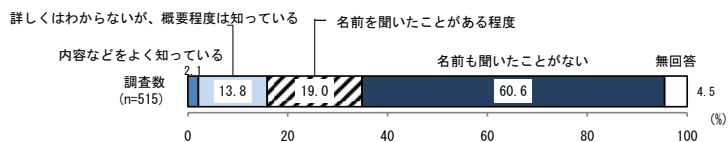
（※5）成年後見制度は、認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分であるため、自身自身で契約や財産管理などの法律行為を行うことが難しい場合に、家庭裁判所から選任された援助者（成年後見人等）がその方を支援する制度です。



「詳しくはわからないが、概要程度は知っている」が32.8%と最も高く、次いで、「名前を聞いたことがある程度」が28.7%、「名前も聞いたことがない」が27.6%、「内容をよく知っている」が6.6%となっています。

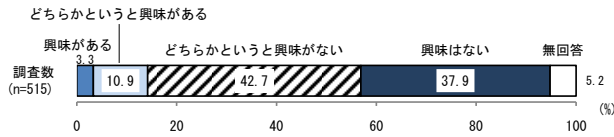
問 44. あなたは市民後見人制度（※6）を知っていますか。（1つに○）

（※6）家庭裁判所から成年後見人等として選任された一般市民のことで、専門組織による養成と活動支援を受けながら、報酬を前提とせずに活動します。



「名前も聞いたことがない」が60.6%と最も高く、次いで、「名前を聞いたことがある程度」が19.0%、「詳しくはわからないが、概要程度は知っている」が13.8%、「内容をよく知っている」が2.1%となっています。

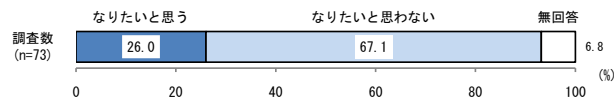
問 45. あなたは市民後見人制度に興味がありますか。(1つに○)



「どちらかという興味がない」が42.7%と最も高く、次いで、「興味はない」が37.9%、「どちらかという興味がある」が10.9%、「興味がある」が3.3%となっています。

問 45-1. 問 45 で「1. 興味がある」「2. どちらかという興味がある」と回答した方にお尋ねします。

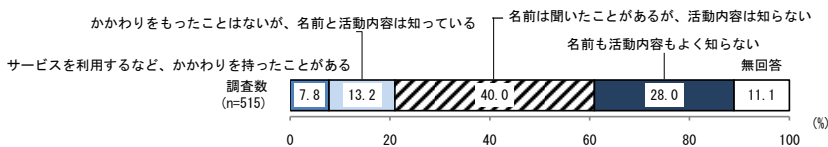
あなたは市民後見人になりたいと思いますか。(1つに○)



「なりたと思わない」が67.1%と最も高く、次いで、「なりたと思う」が26.0%となっています。

問 46. あなたは、四條畷市社会福祉協議会(※7)についてご存知ですか。(1つに○)

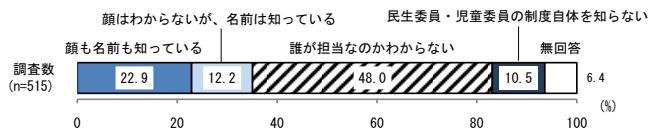
(※7) 四條畷市福祉協議会とは、四條畷市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とする社会福祉法人です。



「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が40.0%と最も高く、次いで、「名前も活動内容もよく知らない」が28.0%、「かかわりをもったことはないが、名前と活動内容は知っている」が13.2%、「サービスを利用するなど、かかわりを持ったことがある」が7.8%となっています。

問 47. あなたは、お住まいの地区の民生委員・児童委員（※8）をご存知ですか。（1つに○）

（※8）民生委員・児童委員はそれぞれの担当地区の中で、生活のことや子どものこと、高齢者福祉、障がい者福祉など、市民の皆さんが抱えるさまざまな問題について相談などを行っています。また、必要なときは、福祉事務所や関係機関に連絡や調整を行うなど市民の皆さんが安心して暮らせるように支援をしています。



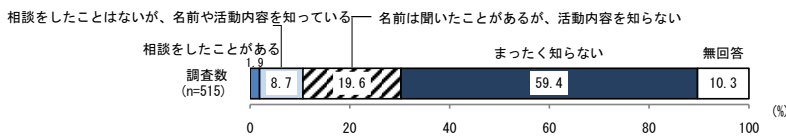
「誰が担当なのかわからない」が48.0%と最も高く、次いで、「顔も名前も知っている」が22.9%、「顔はわからないが、名前は知っている」が12.2%、「民生委員・児童委員の制度自体を知らない」が10.5%となっています。

問 48. あなたはそれぞれの機関や団体、しくみをご存知ですか。（それぞれ1つに○）

コメントの追加 [平山2]:
全項目の説明（※9～※12）いれる

1. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）※9

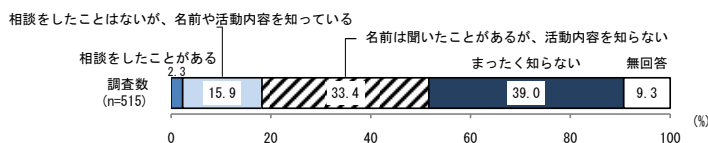
（※9）CSWとは、市内3ヶ所にあるいきいきネット相談支援センターの相談員のことで、身近な地域で援護を要する高齢者、障がい者、子育て中の親などに対して相談や訪問を行ったり、必要なサービスへつないだりする役割を担っています。市内には、市役所生活福祉課地域福祉担当内・市民活動センター（社会福祉協議会）・グリーンホール田原内に配置しています。



「まったく知らない」が59.4%と最も高く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、活動内容を知らない」が19.6%、「相談をしたことはないが、名前や活動内容を知っている」が8.7%、「相談をしたことがある」が1.9%となっています。

2. 障がい者相談支援センター※10

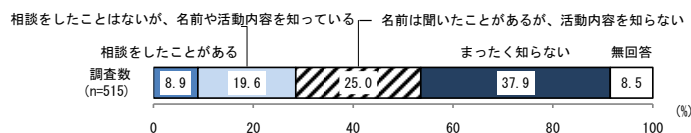
(※10) 障がい者相談支援センターとは、障がい者やその家族の人などからの相談に応じる機関で、必要な情報の提供や福祉生活・福祉サービスの紹介や利用相談など、障がい者が自立した日常生活または社会生活を営むための支援をします。市内には、障がい者基幹相談支援センターさつき、障がい者相談支援センターあとからゆっくり、障がい者相談支援センターしのぶが丘、障がい者相談支援センター和幸の4ヶ所があります。



「まったく知らない」が39.0%と最も高く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、活動内容を知らない」が33.4%、「相談をしたことはないが、名前や活動内容を知っている」が15.9%、「相談をしたことがある」が2.3%となっています。

3. 地域包括支援センター※11

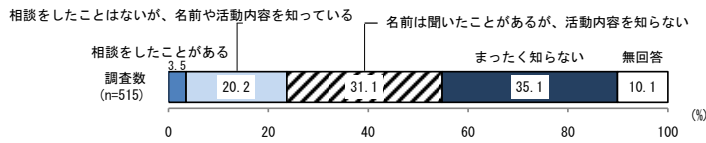
(※11) 地域包括支援センターとは、高齢者が住みなれた地域でいきいきと生活ができるように、さまざまな支援を行う地域介護の中核拠点です。地域包括支援センターでは、保健師、社会福祉士や主任ケアマネージャーが中心となって高齢者やその家族などから相談を受けたり、介護予防ケアマネジメント（介護予防対象者の選定や介護予防プランの策定・評価）、高齢者の権利擁護や虐待の早期発見・防止や地域ケアマネージャーの後方支援などの活動を行っています。市内には、第1地域包括支援センター、第2地域包括支援センター、第3地域包括支援センターの3ヶ所があります。



「まったく知らない」が37.9%と最も高く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、活動内容を知らない」が25.0%、「相談をしたことはないが、名前や活動内容を知っている」が19.6%、「相談をしたことがある」が8.9%となっています。

4. 子育て総合支援センター※12

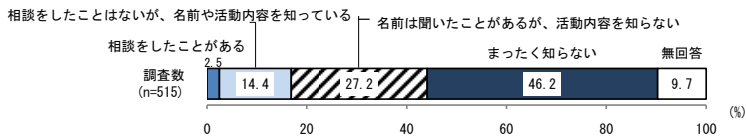
(※12) 子育て総合支援センターと児童発達支援センターの複合施設を「すてっぷ★なわて」と言います。0～18歳までの子どもに関する総合相談や子育て支援の実施、発達についての相談、子ども虐待の通告受付や対応を行っている機関です。その他にも、つどいの広場、おやこ教室、子育て支援に関わる団体や個人へのおもちゃ・絵本の貸出し、子育て講演会、親支援プログラム等を実施しています。また、地域で子育てを助け合う有償ボランティア活動であるファミリー・サポート・センター事業も行っています。



「まったく知らない」が35.1%と最も高く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、活動内容を知らない」が31.1%、「相談をしたことはないが、名前や活動内容を知っている」が20.2%、「相談をしたことがある」が3.5%となっています。

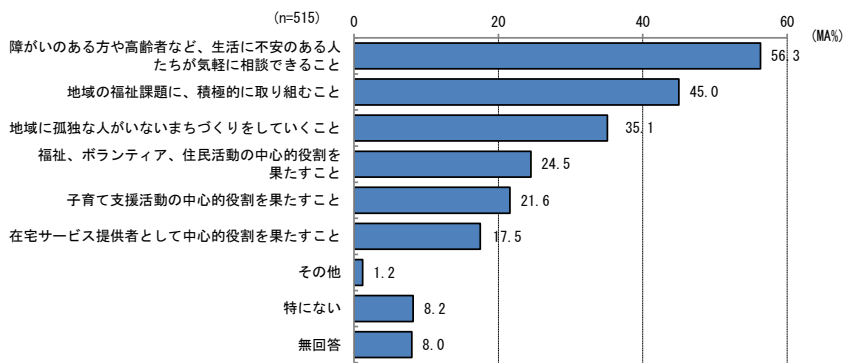
5. 児童発達支援センター※12

(※12) 子育て総合支援センターと児童発達支援センターの複合施設を「すてっぷ★なわて」と言います。0～18歳までの子どもに関する総合相談や子育て支援の実施、発達についての相談、子ども虐待の通告受付や対応を行っている機関です。その他にも、つどいの広場、おやこ教室、子育て支援に関わる団体や個人へのおもちゃ・絵本の貸出し、子育て講演会、親支援プログラム等を実施しています。また、地域で子育てを助け合う有償ボランティア活動であるファミリー・サポート・センター事業も行っています。



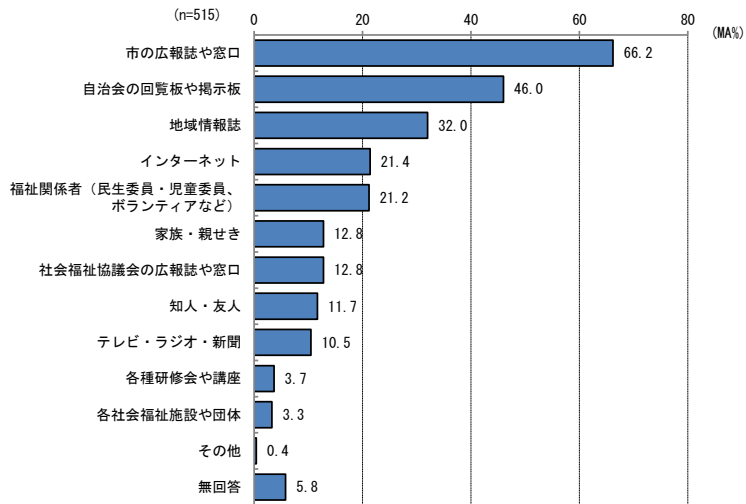
「まったく知らない」が46.2%と最も高く、次いで、「名前は聞いたことがあるが、活動内容を知らない」が27.2%、「相談をしたことはないが、名前や活動内容を知っている」が14.4%、「相談をしたことがある」が2.5%となっています。

問 49. あなたが四條畷市社会福祉協議会に期待することは、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)



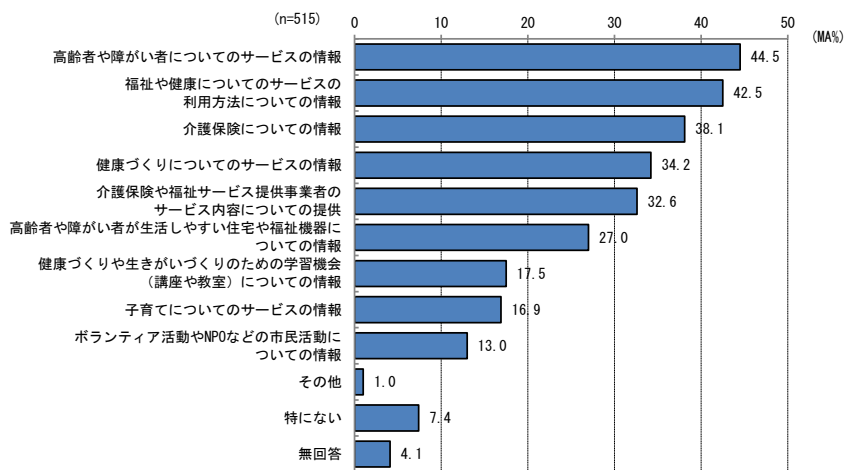
「障がいのある方や高齢者など、生活に不安のある人たちが気軽に相談できること」が56.3%と最も高く、次いで、「地域の福祉課題に、積極的に取り組むこと」が45.0%、「地域に孤独な人がいないまちづくりをしていくこと」が35.1%、「福祉、ボランティア、住民活動の中心的役割を果たすこと」が24.5%、「子育て支援活動の中心的役割を果たすこと」が21.6%となっています。

問 50. 市の福祉や保健に関する情報を、どこから知りたいと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)



「市の広報誌や窓口」が 66.2%と最も高く、次いで、「自治会の回覧板や掲示板」が 46.0%、「地域情報誌」が 32.0%、「インターネット」が 21.4%、「福祉関係者 (民生委員・児童委員、ボランティアなど)」が 21.2%となっています。

問 51. あなたは福祉や健康について、どんな情報を知りたい、どんな情報を充実してほしいとお考えですか。（あてはまるものすべてに○）



「高齢者や障がい者についてのサービスの情報」が44.5%と最も高く、次いで、「福祉や健康についてのサービスの利用方法についての情報」が42.5%、「介護保険についての情報」が38.1%、「健康づくりについてのサービスの情報」が34.2%、「介護保険や福祉サービス提供事業者のサービス内容についての提供」が32.6%となっています。

問 52. 市では、第4期地域福祉計画の基本理念である“みんなの力で地域からつくる、暖かみのあるまち”をつくるために、市民の皆さんとともに、地域福祉の充実を目指しています。誰もが安心して住みやすいまちづくりのために、地域福祉に対するご意見・ご要望、市民のみなさんが取り組んでいただけること（日常のちょっとした助け合いなども含め）など、ご自由にご記入ください。

四条畷市の地域福祉に対する考えを回答者に自由記述でたずねたところ127人から172件の回答がありました。以下の表では記入内容にしたがって項目を作成し、内容を分類しています。なお、複数の事柄に関する記述があった場合は、それぞれでカウントしています。

◆生活課題や地域福祉について	回答数
【子育て】 ・子供が小さい時は、子育てのサービスを充実して欲しいと思います。	1件
【支援・制度】 ・生活保護を受けている方の中で本当に困っている時は、仕方がないと思いますが、マンネリ化している人も見受けられます。 ・子供に対する助成金などもすごく厳しいです。高齢者への待遇が潤っているのが現状。子供たち、若い世帯への待遇は薄い。お互い助け合うことが必要だと思います。	11件
【地域の活動】 ・体の不自由な方など高齢者には、声かけや買物の手伝い等、地域住民も行政と一緒にやっていければ良くなっていくのかなとも思う。 ・子育て世代と高齢者世代がともに助け合えるような組織があればいいと思う。	12件
【偏見】 ・障害者に対する偏見を一部の人ではなく、より一般の人、より多くの人にとりのぞいてほしい（障害者や当事者も含めて）	1件
合計	25件

◆ボランティア活動等について	回答数
【活動参加の機会や認識】 ・社会福祉やボランティア、市の上記のような活動を一般市民にあまり浸透していないように感じます。 ・小（中）学校の授業に、地域の専門家が教え（手伝い）に行くなど、眠っている大人達の能力をうまく活用し、交流する場が広がれば良いと思います。	6件
合計	6件

◆住まいの地域について	回答数
【地域の安全】 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、挨拶やちょっとした声かけが大切だと思います。その家にどんな方が住んでいるかが分っていれば、いざという時に何かお手伝いできるかもしれないからです。 ・子どもが小学校に入って3月から歩いて帰宅するので、帰り道の安全を願っています。近所の方々の見守りの優しい目が多くあると安心です。 	4件
【相談窓口】 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉などの情報の入手については、窓口（相談先）を1つにして、そこから内容により枝分けをしていく方が市民側は分かりやすいかもしれないです。 ・気軽に福祉の事などを相談出来る窓口を役所に開設したらいいと思う。 ・困ったときにどこに、誰に問い合わせたら良いという情報をもっと広めていただきたいと思います。 	5件
【医療】 <ul style="list-style-type: none"> ・病院関係の充実を希望します。田原地区での眼科、耳鼻科、皮膚科が必要だと思います。 ・田原地区は医療機関が少なく、医療センターができるととても助かります。 	2件
【まちづくり】 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が誰か困っている人に声を掛ける勇気を持つことで、各々の暖かみが暖みのあるまちづくりにつながるのだと思います。 ・高齢者や介護を必要としている者、障害者等の弱者が安心出来る町作りをお願いしたいと思います。 ・ボランティア活動などの市民活動に力を入れ、若い人達の助けを借りて高齢者が生活しやすいまちになればいいなと思います。 	18件
【環境整備（交通整備）】 <ul style="list-style-type: none"> ・車が通りにくいし、狭い道を広くしてほしい。バリアフリーの拡大と進展 ・道路の道幅が狭いので、救急車および緊急時の対応に問題点があると思う。 	16件
【施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・子供が遊べる場所が少ない。公園は草だらけ。土日は公共の場が休み。働く母親は土日祝、近くで遊ばせる所にいつも悩む。 ・話し合える場所作り毎日楽しく過ごせる所、自分の考えなどが言える所、不安な気持ちが分かってくれる場所があればいいなと思います。 ・健康づくりの場を提供して欲しい（リハビリ教室、体操講座）。 	17件
【近所付き合い】 <ul style="list-style-type: none"> ・ご近所とのつながりを深めて信頼関係をつくり、そのだれもが内容をよく知り、参加出来るようにする。 ・ゴミを捨てられたり、物を盗られたりすることが増えたのは近所付き合いが希薄になってきたからかと思いました。 ・住んでいる地域の特性に依り、課題が多用で大変難しいと思うが、まずは隣近所からが大切だと思う。 	21件
合計	83件

◆地域福祉にかかわる機関や団体、しくみについて	回答数
【地域福祉に関する認識】 <ul style="list-style-type: none"> ・単身者の老人等の財産管理が必要な場合、適切に本人のため処理してくれる制度（後見人）の必要な方が、これから多くなると思うので市民に広く広報することが必要と思います。 ・市民の一人一人が、もっと福祉に興味を持ち、弱者にやさしい四條畷市である様に努力し、もっと感心を持つべきだと思います。 	7件
【地域の生活に関する要望】 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関してかっこうだけでなく実質的に、即実行をしてほしい。計画倒れに成らぬ事、怪しいボランティアなどは排除してほしい。 ・助け合い切符みたいな制度があればいいと思います。こちらが何らかのお助けをしたときに（子供の預かり、買い物代行、そうじ代行など）その報酬分がカードにプールされ、今度自分が利用したいときに使えるような仕組みです。 	6件
【福祉の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や身障者向けのサービスが多く、子育てや医療など新規住民になるであろう若い世代向けのサービスが他の地域と比較して非常に少ないような気がします。 ・歳入を増やす事を考えるべき。福祉充実には不可欠。 ・四條畷市はR163のトンネルを境に環境が違いすぎるので、地域の温度差がかなりあると思う。 	3件
合計	
	16件

◆自分のことについて	回答数
【健康についての不安】 <ul style="list-style-type: none"> ・年配のかたとちょっとした話（挨拶+αぐらい）はしますが、高齢者の人数が年々増えていく一方、私自身も年を重ねていき、身体も心も意思だけでは上手くいかなくなってきました。 ・まずは自分自身が健康寿命を延ばせるように、健康に気を付けて生活していきたいと思います。 ・今私自身健康の為、多くの人が食の大切さに関心を持ってほしいと願っています。 	3件
【これからの人生について】 <ul style="list-style-type: none"> ・年寄り自分を認め年寄りらしく生きて行きたいと思います。 ・退職して時間に余裕ができて、自分の力の範囲でできることがあれば、お手伝いしたいと思います。 ・現在友人、知人とわいわいと楽しい人生を送れる様にとり組、笑いと共に食に向き合う楽しさを知ってほしいと願って、ささやかですが地域で取組んでいます。 	3件
合計	
	6件

◆その他	回答数
【行政】 ・ これからの社会超高齢、少子化、医療等の問題、市政、市民人々が真剣に取り組んでいただく様希望します。 ・ そもそも窓口や、さまざまなサービスを受けるための聞き取り調査を通じて市が何をすべきかしっかり受け止め感じていくことが当たり前だと思います。	14件
【アンケート】 ・ 近隣の方の助けは必要と思いますが・・・「してあげる」「やってあげた」の空気があり、公的機関の更なる情報公開に期待すると共に、もっと耳を傾けたいと思ったアンケートでした。	5件
【その他】 ・ 子育て総合支援センターでのおもちゃ、絵本の貸し出し時間の延長、もしくは土曜日でも利用できるようにしてほしい。 ・ 現在の居住環境のすべてに満足している。	17件
合計	36件

3. 調査結果の概要

3. 調査結果の概要

○地域とのかかわりについて

- ・現在住んでいる地域への愛着については、約8割の方が『愛着を感じている（「たいへん愛着を感じている」＋「少し愛着を感じている」）』と回答しています。また、現在の居住区（小学校区）が「わからない」と回答した方のうち約6割の方が『愛着を感じている』と回答しているため、現在住んでいる地域がわからない人の方より、現在住んでいる地域がどの小学校区なのかわかる方の方がより愛着を感じていることがうかがえます。
- ・現在住んでいる地域の暮らしやすさについては、近隣の生活マナーや買物等の便利さ、公的な手続きの便利さ、道路や交通機関等の使いやすさ、自然活動、地域の雰囲気やイメージについて約半数の方が『満足（「満足」＋「やや満足」）』と回答しています。しかし、地域の防災体制や保健・福祉サービスや相談体制、公民館活動などの文化教養活動については「わからない」と回答している人がほかの項目に比べて多いことから、そもそも活動を把握していない人がいる可能性が考えられます。そのため、これらの活動に関して各地域への周知を進める必要があります。
- ・現在住んでいる地域の行事や活動への参加については全体で約4割の方が『参加している（「ほとんど参加している」＋「時々参加している」）』、約6割の方が『参加していない（「ほとんど参加していない」＋「まったく参加していない」）』と回答しています。参加していない理由としては「仕事や家事・育児などで忙しい（時間がない）から」という回答が多くあげられました。
- ・近所の人との付き合いについては「特に用事がなくても行き来し、困ったときは助け合える人がいる」、「簡単な頼みごと、物の貸し借りなどをする人がいる」、「立ち話をする程度の人がある」、「あいさつをする程度の人がある」など、約9割の方が何らかの近所付き合いをしていることがうかがえます。小学校区においての差はあまり見られませんが、居住年数別結果をみると近所付き合いをする人は住み始めてから6年目以降に増える傾向にあります。近所付き合いをしない理由としては「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」や「近所付き合いはわずらわしいので避けている」などが多くあげられています。

- ・近所付き合いに関する考え方については『必要だと思う（「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う」＋「わずらわしいと思うが、日常生活に便利なことが多いので必要だと思う」）』が約7割選択されたことから地域とのかかわりについては近所を中心とした付き合いが必要であると考える人が多いことがわかります。
- ・地域社会の役割について期待する内容としては「緊急事態が起きたときの対応」や「防災・防犯などの日頃の協力」が半数以上回答されていることから身の危険を感じる際には共助や公助によるサポートが必要と考える人が多いことがうかがえます。

○地域福祉にかかわる機関・団体・しくみについて

- ・成年後見人制度の認知度については『知っている』（「内容などをよく知っている」＋「詳しくはわからないが、概要程度は知っている」）の割合が約4割、『知らない』（「名前も聞いたことがない」）の割合は約5割となっています。また、市民後見人制度の認知度については『知っている』の割合が約2割、『知らない』の割合は約8割となっています。
- ・市民後見人制度に興味があるか、という項目では『興味がある（「興味がある」＋「どちらかというに興味がある」）』の割合が約1割、『興味がない（「興味はない」＋「どちらかというに興味がない」）』の割合は約8割となっています。また、『興味がある』と答えた人のうち、市民後見人に「なりたいと思う」人は約3割となっていることから市民後見人制度の重要性や意義を伝えることが必要であると考えられます。
- ・四條畷市社会福祉協議会に期待することとしては「障がいのある方や高齢者など、生活に不安のある人たちが気軽に相談できること」や「地域の福祉課題に積極的に取り組むこと」があげられています。また、市の福祉に関する情報を知るための手段としては「市の広報紙や窓口」、「自治会の回覧板や掲示板」を希望する人が多く、知りたい情報の内容としては「高齢者や障害者についてのサービスの情報」や「福祉や健康についてのサービスの利用方法についての情報」が多くあげられていることからこれらの内容を踏まえた情報の提供を行う必要があります。

○福祉について

- ・福祉への関心については『関心がある』（「とても関心がある」＋「ある程度関心がある」）と回答した人は約7割、『関心がない』（「まったく関心がない」＋「あまり関心がない」）と回答した人は約2割となっています。また、関心がある福祉については「高齢者に関する福祉」が最も多く回答されました。これは回答者の年代の割合のうち60歳代以上が半数を占めていることから高齢者に関する項目が多く回答されたことが考えられます。
- ・現在感じている悩みに関しては「自分や家族の老後のこと」や「自分や家族の健康のこと」が多く回答されていることから、家族や自分自身に関する悩みを抱えている人が多いことがうかがえます。また、悩みや不安を感じたときの相談先としては「家族・親戚」や「知人・友人」が多いことがわかります。
- ・日常生活が不自由になった時、地域でしてほしい援助としては「安否確認の声かけ」や「買い物の手伝い」が最も多く回答されました。また、次いで「ごみ出し」が多く回答されていることから日常生活が不自由になった際には自身の代わりに日々の生活に関わる部分を補ってほしい、と考える人が多いことがうかがえます。
- ・福祉サービスの利用に関して不都合を感じた経験については「福祉サービスを利用したことがない」と答えた割合が約6割、「不都合や不自由を感じたことがない」と回答した割合が約2割、「不都合や不自由を感じたことがある」と回答した割合が約1割となっています。不都合を感じた理由としては「利用したいサービスが利用できなかった」といった回答が最も多く回答されました。また、次いで「どこに利用を申し込めばいいかわからなかった」、「利用手続きが煩雑だった」などが多く回答されています。
- ・福祉サービスを安心して利用できる状況をつくるために必要なこととしては、「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」や「相談できる場所や相談員の情報」などが多く回答されています。今後より一層福祉サービスを利用いただくためにも福祉サービスに関する情報の周知に取り組む必要があります。
- ・現在住んでいる地域における問題や課題としては「地域における人と人とのつながりが希薄化し連帯（問題解決力）が不足している問題」や「見守りや生活支援を必要とするひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」が多く回答されています。

○災害が起こった時の考え方について

- ・災害時の対策について不安に感じる事として「水や食料の不足」や「家屋の損害」、「安否確認」、「救急医療体制の確保」が多くあげられました。また、「四條畷市避難行動要支援者支援プラン」についての認知度については知らない人が約8割と多く、周知の必要があります。
- ・災害時に自力困難が難しい場合、近隣に援助を求めるために個人情報地域に限られた方々が事前に把握しておくことが必要か、といった内容に関しては約半数が情報を知ってほしいと回答しています。しかし、性年代別でみると20歳代では知られたくない、と回答した割合が高くなっています。若い世代では災害時の支援の重要性よりも個人情報の漏洩など、個人情報を知られることに対する抵抗感を感じていることが考えられるため、災害時の支援の重要性について啓発を行い、意識を向上させる必要があります。
- ・災害時に自分や家族の命を守るために最も重要なのは、自助・共助・公助のうちどれか、という項目に関しては全体で約3割が自助、約4割が共助、約3割が公助と回答しています。災害時、自分や家族の命を守るために、まずは自身の身の安全を確保したうえで、地域の方々との助け合う必要がある、ということを知周する必要があります。

○ボランティア活動について

- ・ボランティアに『参加したことがある人』（「現在参加している」＋「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」）は全体で約2割、「参加したことがない人」は全体で約8割となっています。ボランティアに参加したことがない理由としては、「仕事や学校で忙しい（時間がない）から」が最も多くあげられています。このことから仕事や学校と両立してボランティアに参加できるようにするため、ワーク・ライフ・バランスを実現させるよう、取り組む必要があります。次いで「きっかけがないから」や「活動団体を知らないから」が多く選ばれていることや、今後ボランティア活動を広めていく上で必要なこととして「さまざまなボランティア団体や活動に関する情報の提供を行うこと」が最も多く回答されていることからボランティア活動に関する情報の提供を拡充する必要があります。

- ・今後ボランティアに『参加したい』（「参加したい」＋「できれば参加したい」）と考える人は全体で約4割となっています。また、活動してみたい内容としては「社会福祉に関する活動」や「自然・環境保護に関する活動」が多くあげられました。また、「社会福祉に関する活動」のなかでどのような社会福祉活動に参加したいか、といった内容に関しては「高齢者に対する介護に関する活動」が多くあげられています。

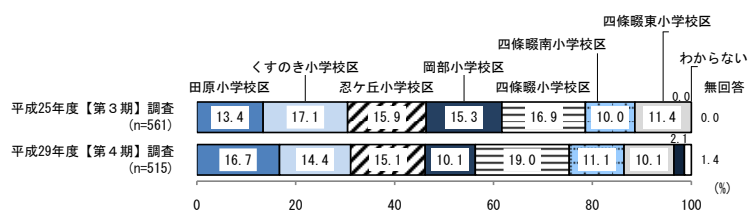
〇こころの健康について

- ・悩みを抱えたり、ストレスを感じたときに誰かに相談したり助けを求めることに対して『ためらいを感じる（「そう思う」＋「どちらかというと思う」）』と回答した人は約5割、『ためらいを感じない（「そう思わない」＋「どちらかというと思わない」）』と回答した人は約4割となっており、ためらいを感じる人の方が少し多いことがうかがえます。
- ・今後こころの問題の相談先として期待されるものに「専門の電話相談」が多く選択されています。これは悩みを抱えたり、ストレスを感じたときに自身の周りの誰かに相談したり、助けを求めることに対してためらいを感じる人が多いことから専門の相談先を求める人が多いことが考えられます。また、電話であれば手軽に相談できるといった点からも「専門の電話相談」が多く選択されたと考えられます。
- ・自殺したいと考えた経験については自殺したいと思ったことがある人が約2割存在し、男性よりも女性の方が自殺したいと考えたことがあることがわかります。また、自殺したいと考えたとき、どのように乗り越えたか、という質問に対しては「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」という回答が多く選択されました。
- ・身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口への相談を勧めるか、という項目では「勧める」が約7割回答されています。また、自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、利用したい相談機関としては「精神科や心療内科などの医療機関」が最も多く、約半数の方が選択していることがうかがえます。

4. 参考（経年比較調査結果）

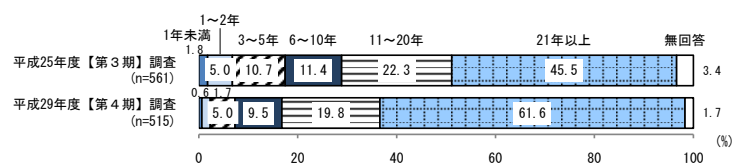
4. 参考（経年比較調査結果）

問7. あなたがお住まいの小学校区はどこですか。わからない方は、〇〇町〇丁目などご記入ください。（1つに〇）



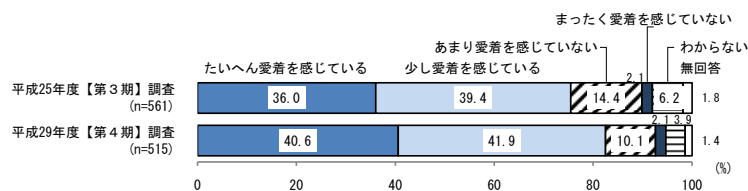
平成25年度【第3期】調査では「くすのき小学校区」が17.1%と最も高く、平成29年度【第4期】調査では「四條畷小学校区」が19.0%と最も高くなっています。

問8. 現在の小学校区にお住まいになって何年になりますか。（1つに〇）



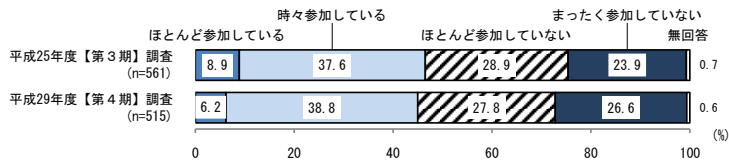
すべてのカテゴリで「21年以上」が高く、平成25年度【第3期】調査では45.5%、平成29年度【第4期】調査では61.6%となっています。

問9. お住まいの地域に対して、愛着を感じていますか。（1つに〇）



すべてのカテゴリで「少し愛着を感じている」が高く、平成25年度【第3期】調査では39.4%、平成29年度【第4期】調査では41.9%となっています。

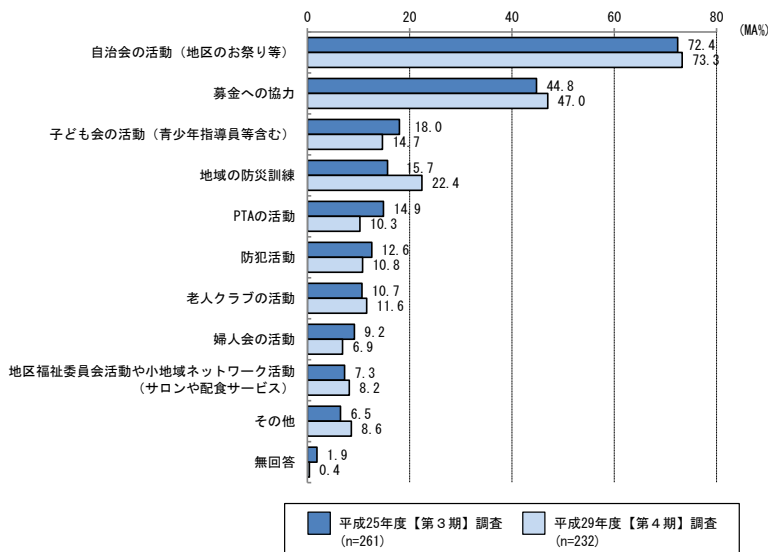
問 11. あなたは、お住まいの地域の行事や活動にどの程度参加していますか。(1つに○)



すべてのカテゴリーで「時々参加している」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 37.6%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 38.8%となっています。

問 11-1. 問 11 で「1. ほとんど参加している」「2. 時々参加している」と回答した方にお尋ねします。

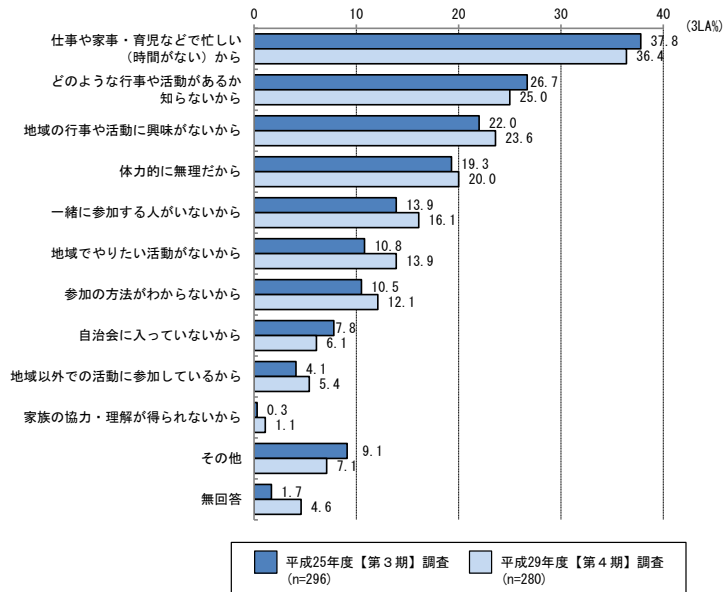
どのような行事や活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)



すべてのカテゴリーで「自治会の活動(地区のお祭り等)」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 72.4%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 73.3%となっています。

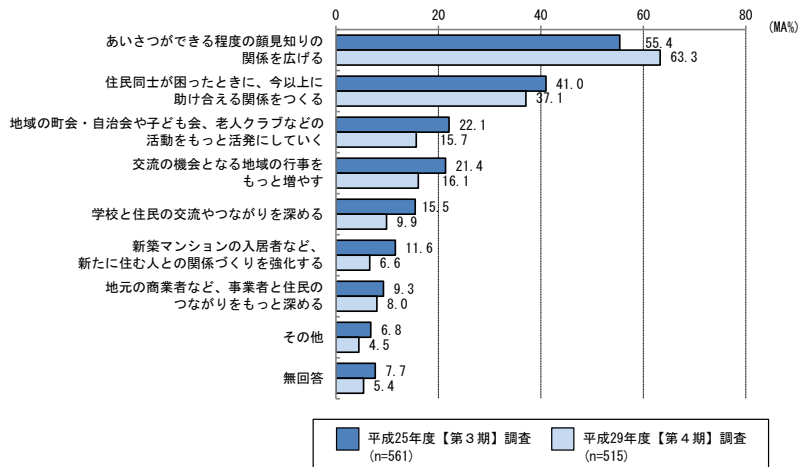
問 11-2. 問 11 で「3. ほとんど参加していない」「4. まったく参加していない」と回答した方にお尋ねします。

参加していない理由をお答えください。(〇は3つまで)



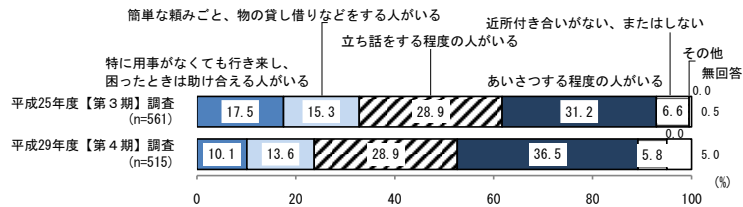
すべてのカテゴリーで「仕事や家事・育児などで忙しい (時間がない) から」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 37.8%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 36.4%となっています。

問 15. お住まいの地域で、地域活動や近所付き合いがもっと活発に行われるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



すべてのカテゴリーで「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が高く、平成25年度【第3期】調査では55.4%、平成29年度【第4期】調査では63.3%となっています。

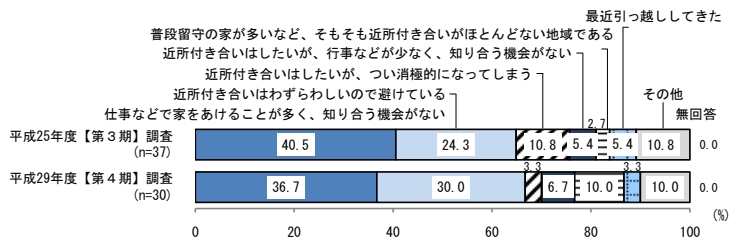
問 12. あなたとご近所の人とは、どの程度の付き合いをしていますか。（1つに○）



すべてのカテゴリーで「あいさつする程度の人がある」が高く、平成25年度【第3期】調査では31.2%、平成29年度【第4期】調査では36.5%となっています。

問 12-1. 問 12 で「5. 近所付き合いがない、またはしない」と回答した方にお尋ねします。

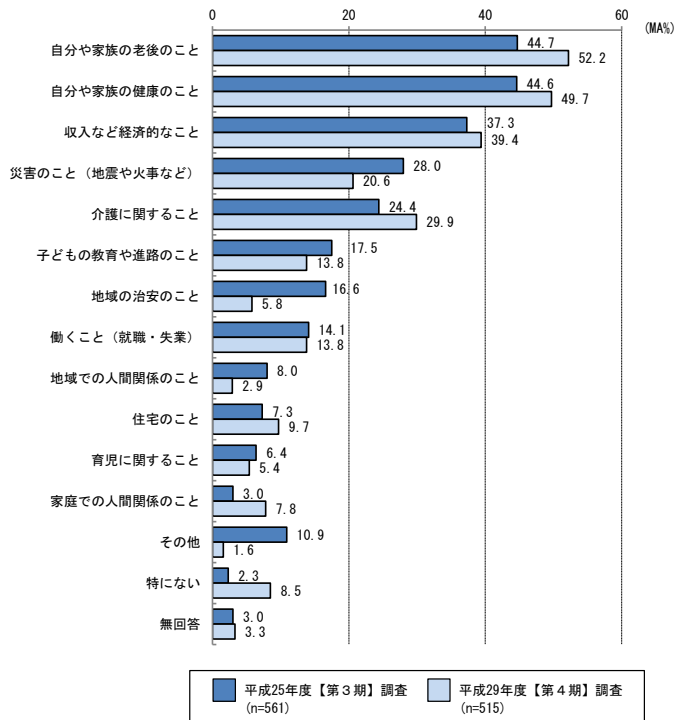
あまり近所付き合いをしない理由は何ですか。（1つに○）



すべてのカテゴリーで「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」が高く、平成25年度【第3期】調査では40.5%、平成29年度【第4期】調査では36.7%となっています。

問 25. あなたは現在、どのような悩みや不安を感じていますか。

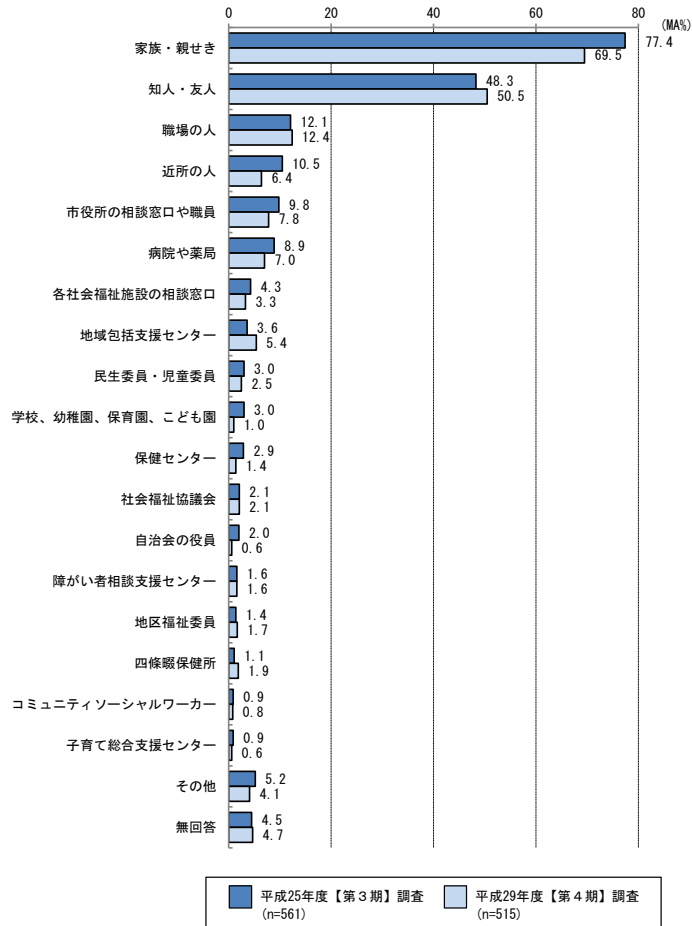
(あてはまるものすべてに○)



すべてのカテゴリーで「自分や家族の老後のこと」が高く、平成25年度【第3期】調査では44.7%、平成29年度【第4期】調査では52.2%となっています。

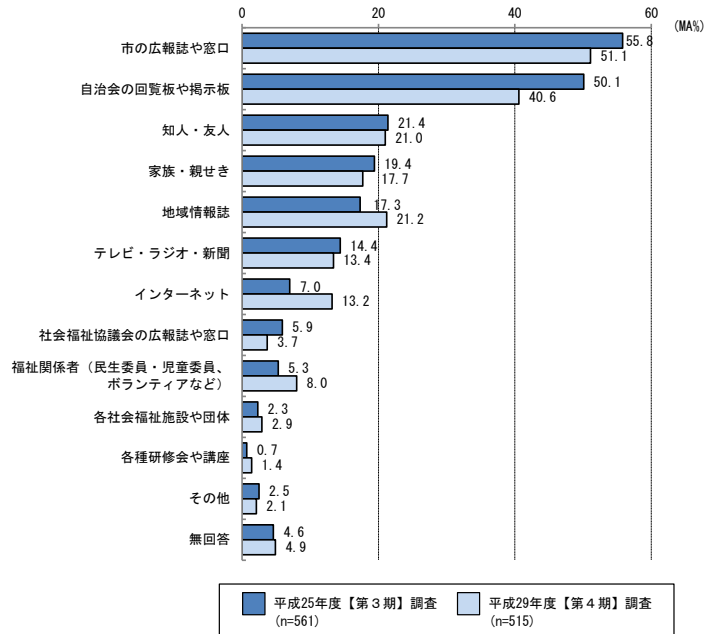
問 26. 日々の暮らしの中で、悩みや不安を感じたとき、どこに相談しますか。

(あてはまるものすべてに○)



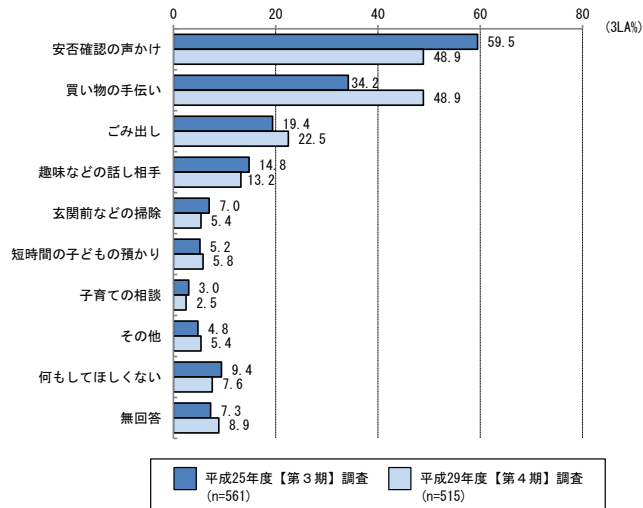
すべてのカテゴリで「家族・親せき」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 77.4%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 69.5%となっています。

問 27. あなたは、福祉サービスに関する情報や地域の行事・イベントに関する情報をどのようにして入手していますか。(あてはまるものすべてに○)



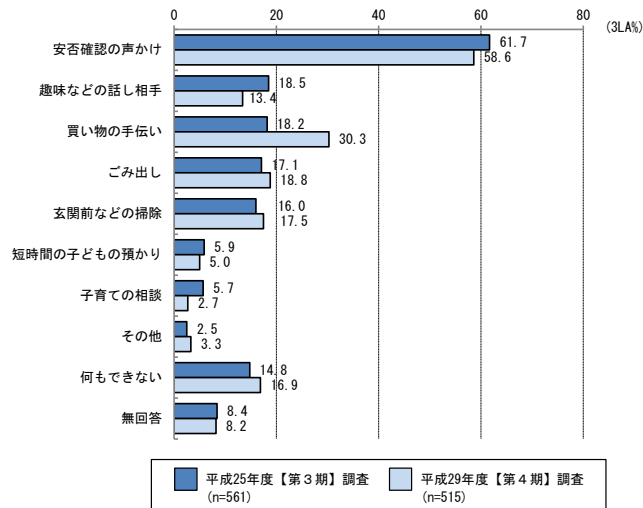
すべてのカテゴリーで「市の広報誌や窓口」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 55.8%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 51.1%となっています。

問 28. あなたは、日常生活が不自由になったとき（例：高齢、病気、事故など）、地域でどのような援助をしてほしいと思いますか。（〇は3つまで）



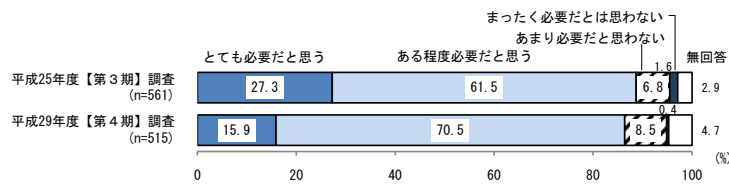
すべてのカテゴリーで「安否確認の声かけ」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 59.5%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 48.9%となっています。

問 29. 隣近所に、高齢者、障がい者の介護や子育てなどで困っている人（家庭）があった場合、あなたはどのような援助ができると思いますか。（〇は3つまで）



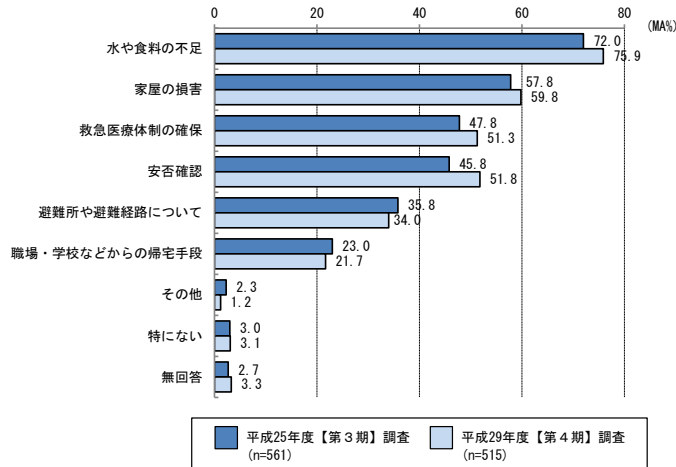
すべてのカテゴリーで「安否確認の声かけ」が高く、平成25年度【第3期】調査では61.7%、平成29年度【第4期】調査では58.6%となっています。

問 31. あなたは、生活上の困り事など地域の福祉の問題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いについて、どの程度必要だと思いますか。（1つに〇）



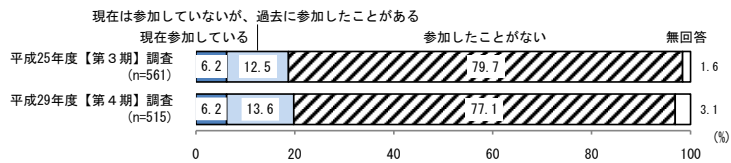
すべてのカテゴリーで「ある程度必要だと思う」が高く、平成25年度【第3期】調査では61.5%、平成29年度【第4期】調査では70.5%となっています。

問 36. 地震や風水害などの災害時の対策について、不安に感じることは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)



すべてのカテゴリーで「水や食料の不足」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 72.0%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 75.9%となっています。

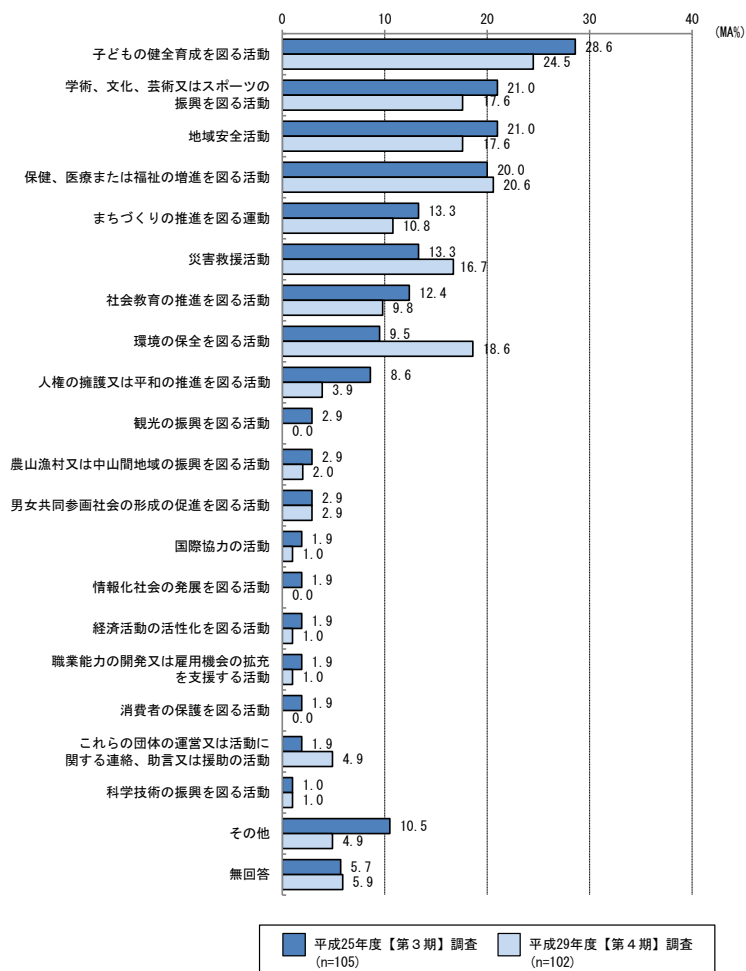
問 40. 問 11-1 でお尋ねした地域での活動以外にも福祉、青少年健全育成や文化振興など一定の目的を持って行うさまざまなボランティア活動があります。あなたは、これまでこのようなボランティア活動に参加したことがありますか。(1つに○)



すべてのカテゴリーで「参加したことがない」が高く、平成25年度【第3期】調査では79.7%、平成29年度【第4期】調査では77.1%となっています。

問 40-1. 問 40 で「1. 現在参加している」「2. 現在は参加していないが、過去に参加したことがある」と回答された方にお尋ねします。

あなたが参加している(参加した)ボランティア活動はどのような分野ですか。
(あてはまるものすべてに○)

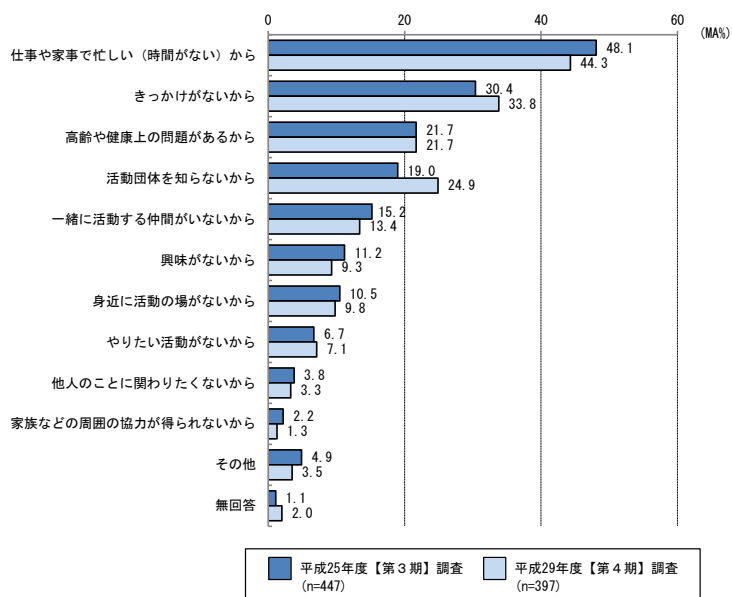


すべてのカテゴリーで「子どもの健全育成を図る活動」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 28.6%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 24.5%となっています。

問 40-2. 問 40 で「3. 参加したことがない」を回答された方にお尋ねします。

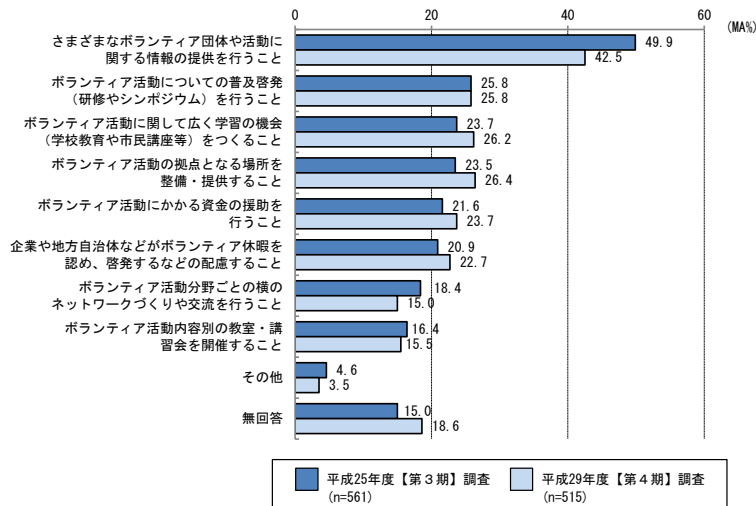
ボランティア活動に参加したことがない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)



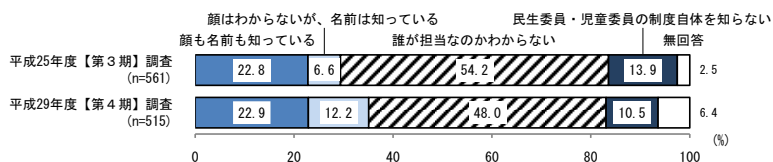
すべてのカテゴリーで「仕事や家事で忙しい(時間がない)から」が高く、平成25年度【第3期】調査では48.1%、平成29年度【第4期】調査では44.3%となっています。

問 42. 今後、ボランティア活動を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)



すべてのカテゴリーで「さまざまなボランティア団体や活動に関する情報の提供を行うこと」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 49.9%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 42.5% となっています。

問 47. あなたは、お住まいの地区の民生委員・児童委員(※8)をご存知ですか。(1つに○)



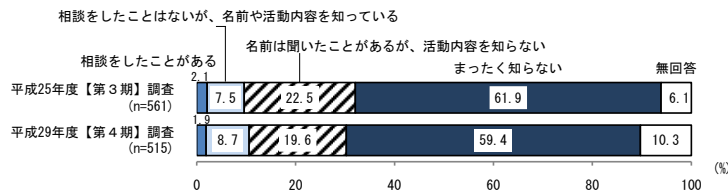
すべてのカテゴリーで「誰が担当なのかわからない」が高く、平成 25 年度【第 3 期】調査では 54.2%、平成 29 年度【第 4 期】調査では 48.0% となっています。

問 48. あなたはそれぞれの機関や団体、しくみをご存知ですか。(それぞれ1つに○)

コメントの追加 [平山3]:

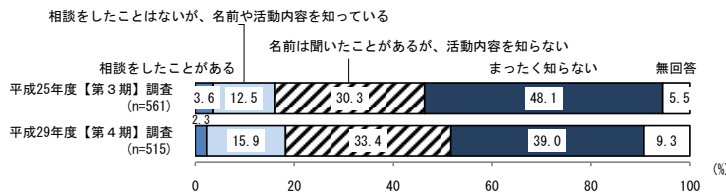
全項目の説明 (※9～※12) いろいろ

1. コミュニティソーシャルワーカー (CSW) ※9



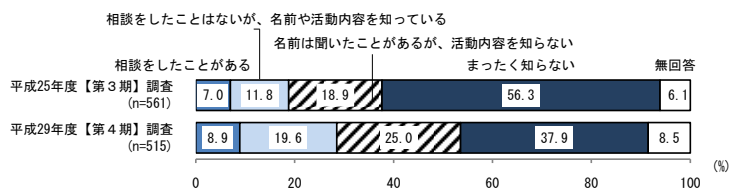
すべてのカテゴリーで「まったく知らない」が高く、平成25年度【第3期】調査では61.9%、平成29年度【第4期】調査では59.4%となっています。

2. 障がい者相談支援センター※10



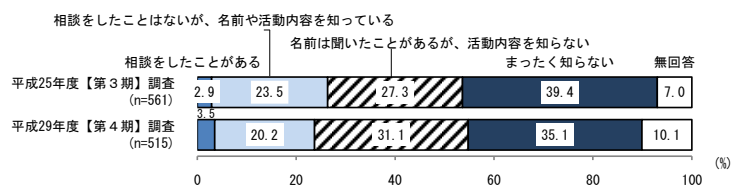
すべてのカテゴリーで「まったく知らない」が高く、平成25年度【第3期】調査では48.1%、平成29年度【第4期】調査では39.0%となっています。

3. 地域包括支援センター※11



すべてのカテゴリーで「まったく知らない」が高く、平成25年度【第3期】調査では56.3%、平成29年度【第4期】調査では37.9%となっています。

4. 子育て総合支援センター※12



すべてのカテゴリーで「まったく知らない」が高く、平成25年度【第3期】調査では39.4%、平成29年度【第4期】調査では35.1%となっています。